令和6年度
総合福祉学科
シラバス

※本シラバスのすべての科目については、学生のてびきP3「6.学習について」の「6-2 成績評価」、「6-3 期末考査について」 をもとに評価される

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	現代倫理	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	本学の建学の精神・校訓・教育方針を具現化するための授業。 倫理を基本とした全人教育としての本科目を履修することにより、社会人としての心構え、グローバルな教養を身に付け、有意な人材となることを目指す。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	通年	社会におけるさまざまな規範の根拠について、哲学の誕生から宗教の発展、現代の動向を講義や演習、グループワークを通して学ぶ
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	この授業を学ぶことにより、倫理学の基本的な考え方を身につけ、自己実現を果たすために自分が社会にどのような価値を与えられるかを考え、自己が成長を実感できるようになることを目指す。
授業担当者	齋藤　照安	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	参考資料：本学「学生の手引き」 CANジャーナル（本学機関誌）、「現代の倫理」（山川出版社）、「ディープな倫理」、「倫理　愛の構造」（東京大学出版会）、オリジナルプリント	
評価方法	前期・後期の試験結果、授業態度、出欠状況を加味した上で、学生の手引きに基づいて評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ
1	授業「現代倫理」の趣旨
2	日本の道徳教育と問題点
3	倫理の意味
4	人間としての自覚
5	古代ギリシャの哲学
6	イギリス経験論と大陸合理論
7	ドイツ哲学の全盛期
8	現代世界への挑戦
9	古代中国の思想家
10	老荘思想
11	日本の経営者(1)

コマシラバス	
90分/コマ	テーマ
12	日本の経営者(2)
13	日本の経営者(3)
14	読書のすすめ
15	前期のまとめ
16	前期試験
17	キリスト教
18	イスラーム教
19	仏教
20	倫理の発展
21	日本の歩んだ道
22	戦後の日本の思想
23	社会契約説
24	奉仕とボランティア
25	社会学の理念
26	人間関係について
27	社会をつくる
28	家族の絆とは何か
29	人間にとって都市とは何か
30	宗教社会学
31	後期のまとめ
32	後期試験

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	相談援助の理論を基盤とした人間関係の形成とコミュニケーションの基礎を学び、対人援助職の基礎的学習を行う。同時に介護の基本である多職種連携の重要性のもと、それぞれの役割と機能を考える。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	この授業は、介護福祉士養成課程の『人間と社会の理解』の領域の「人間関係とコミュニケーション」の内容を行うものとする。演習を中心とした活動授業を行い、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的としています。 グループディスカッションや体験学習を主とするため、自分を表現し、積極的にいろいろな人と関わるようにする。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	①人間関係形成のためのコミュニケーション技術を理解し、実習等で振り返りながら実践で活用できるようになる。 ②自己覚知や他者理解等を通して、自分や他人に対しての理解が深まる。 ③コミュニケーション技術の活用により、介護現場で協働する関係者との適切な情報共有、共通理解のための方法について理解し、実践することができる。	
授業担当者	井川真世		
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	・最新　介護福祉士養成講座　1　人間の理解 第2版　（中央法規） ・最新　介護福祉士養成講座　5　コミュニケーション技術　第2版　（中央法規） 参考：対人援助の現場で使える　聴く・伝える・共感する技術　便利帳（翔泳社）		
評価方法	・出席率　・授業態度（グループワーク時も含む）　・提出物（課題）評価　・試験（小テストを含む）		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	アイスブレイキング　自己紹介
2	コミュニケーションとは	コミュニケーションの基本構造 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
3	援助職として大切にしたいこと	マインド　バイステックの7原則
4	聴き上手になろう	ブロッキング、話しやすい雰囲気作り、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン
5		聞きたい気持ちを表現しよう、パーソナルスペース、傾聴、ペーシング、ミラーリング
6		メッセージの共有、繰り返し、要約、言い換え、聴く力チェック
7	コミュニケーション術を身につける	バリデーションとユマニチュード
8		相手に寄り添うとは何だろう　支援者にとって必要な技術
9		トレーニングワーク演習：バリデーションやユマニチュードの実践
10	伝え上手になろう 共感上手になろう	自己覚知（エゴグラム）・自分と他者の理解
11		指示と助言・リフレーミング
12		先入観や思い込み、受容と共感、ニーズとデマンド
13	援助職のスキル	面接技法、ジェノグラム、エコマップ
14		多職種連携
15	相談援助技術	援助技術ロールプレイ、期末考査

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	チームマネジメント		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	介護実践は、介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、チームで働く力を養うためのコミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な力を身につけることを目指します。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	この授業では、現場で起こりうる課題を題材にした事例を活用し、ケースメソッドによる学習を通して業務課題の発見や、リーダー・フォロワーの役割について疑似的に考える内容となります。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	① 福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる。 ②チームでケアを展開するために必要な、様々な実践力について理解できる。 ③チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。	
授業担当者	川﨑　誠之		
実務家教員	○	特別養護老人ホームにおける生活相談員としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	・最新　介護福祉士養成講座　1　人間の理解 第2版 （中央法規）		
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	介護サービスの特性と求められるマネジメント
2	チームマネジメントの基本	チームマネジメントの基本
3	ケアを展開するために必要なチーム	ケアを展開するために必要なチーム
4	実践力を高めるためのチームマネジメント	実践力を高めるためのチームマネジメント
5	チームワークに必要なリーダーとフォロワー	チームワークに必要なリーダーとフォロワー
6	介護職としてのキャリアデザイン	介護職としてのキャリアデザイン
7	キャリア開発のしくみ	キャリア開発のしくみ
8	キャリア開発と自己研鑽	キャリア開発と自己研鑽
9	福祉サービスと事業所組織	福祉サービスと事業所組織
10	事業所組織の機能と役割①	事業所組織の機能と役割①
11	事業所組織の機能と役割②	事業所組織の機能と役割②
12	事業所組織の経営	事業所組織の経営
13	地域におけるチームマネジメント	地域におけるチームマネジメント
14	業務課題の発見と解決の方法①	業務課題の発見と解決の方法①
15	業務課題の発見と解決の方法②　試験	業務課題の発見と解決の方法②　試験

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	社会福祉概論	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	社会福祉全般にわたる概念や価値について学び、他の各論との接点を見出す。同時に実践場面において、それらの概念や価値がどのように生かされるのかについて学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	①福祉・介護分野の基本である人権や尊厳、自立の概念を理解する。 ②今日の「社会福祉」に至る歴史を学び、社会と生活のしくみについて理解する。 ③地域共生社会の実現に向けた制度や施策についての理解を深める。 ④社会保障制度について学ぶ。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	①「社会福祉とは何か」について、基本理念や考え方を他者に説明できる。 ②我が国の社会福祉発展の歴史を理解したうえで、現代の福祉課題についても考えることができる。 ③人間理解によって専門職の目指す支援のあり方をつかむことができる。 ④社会福祉の法律や制度の概要を理解し、多種協働の実践を学ぶ。
授業担当者	井川真世	
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験
使用テキスト 参考文献	・最新　介護福祉士養成講座　1　人間の理解　第2版　（中央法規） ・最新　介護福祉士養成講座　2　社会の理解　第2版　（中央法規） ・見て覚える！介護福祉士国試ナビ　2025（中央法規）	
評価方法	・出席率　・授業態度　・提出物（課題）評価　・試験（小テストを含む）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	福祉って何だろう
2	人間の尊厳	人権とは　人権思想の源流
3		利用者主体の考え方、利用者主体の実現
4	福祉の歩み	社会福祉の源流
5		社会福祉の基礎～発展
6		福祉の法体制
7	自立のあり方	自立と自律　自立支援とは
8		尊厳の保持と自立のあり方
9	ノーマライゼーション	ノーマライゼーションの等の福祉理念
10		バリアフリーの歴史
11		ユニバーサルデザイン
12	人権侵害	尊厳に配慮した介護実践とは　権利擁護
13		虐待に関する法体制
14	福祉について考えよう	社会福祉の理念　法制度　関係機関のまとめ
15		共生社会、SDGs

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	家族	家族の機能と役割
17	生活の仕組み	ライフスタイルの変化　社会と生活のしくみ　人生100年時代
18	社会の仕組み	データから今の社会を読み取ろう（1）　人口動態統計
19		データから今の社会を読み取ろう（2）　国民生活基礎調査
20		社会保障制度とは（1）
21		社会保障制度とは（2）
22	介護実践に 関連する諸制度	成年後見制度と日常生活自立支援事業
23		個人の権利、保健医療、貧困対策、生活困窮者支援に関する制度・施策
24	地域福祉	地域福祉とは
25		地域福祉資源
26	地域社会	地域共生社会
27		地域包括ケアシステム
28	事例検討	地域共生社会の実現に向けて、私たちにできること ディベート大会（1）
29		地域共生社会の実現に向けて、私たちにできること ディベート大会（2）
30	これからの社会福祉	私たちにできること　自分の人生プラン

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	老人福祉論Ⅰ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	超高齢社会において歴史、背景をもとに支援の基本的考え方を学ぶ。老人福祉法をはじめとする高齢者に対する関連諸制度と介護保障のための介護保険制度の実際について学ぶ。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・「老いる」とはどういうことか理解し、現代社会の高齢者の特徴について学ぶ。 ・高齢者に対する関連諸制度について学ぶ。 ・介護保険制度設立の背景を学び、動向、改正の特徴、手続きや費用の流れについて理解する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	①現代日本における高齢者の特性について学び、全人的な理解ができるようになる。 ②老人福祉法をはじめとする高齢者に対する関連諸制度を理解し、事業やサービス等の知識を身に付ける。 ③介護保険制度の目的や基本的枠組み、介護保険サービスの体系を理解し、サービス利用の手続きや費用の流れを説明できるようになる。	
授業担当者	加藤　浩和		
実務家教員	○	特別養護老人ホーム、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	・最新　介護福祉士養成講座　2　社会の理解（中央法規） ・見て覚える！介護福祉士国試ナビ　2024（中央法規） ・内閣府　高齢者白書		
評価方法	受験資格：出席率80%以上　評価方法：定期試験、課題提出		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業説明 「老い」とは	講義内容、目的、講義の進め方、評価方法、課題提出 加齢による変化、老性自覚、高齢者の悩み
2	高齢者の生活実態	住居、所得、世帯、雇用・就労、介護需要、介護予防
3	高齢者を取り巻く社会環境	超高齢社会、独居、老々介護、ダブルケア、高齢者虐待、介護者離職
4	高齢者保健福祉の動向	高齢者保健福祉の歴史的背景
5		介護保険制度の下における高齢者保健福祉
6	高齢者の健康保持と社会参加	人生100年時代をどのように過ごしていくのか。自分の人生設計を立てる
7	高齢者保健福祉に関連する法体系	高齢者社会対策基本法と老人福祉法
8		高齢者の医療の確保に関する法律
9	介護保険制度	背景と目的、仕組み（保険者と被保険者、保険料、財源、保険給付）
10		仕組み(利用者負担、利用手続き、サービス、地域支援事業と地域ケアシステム)
11		組織団体の役割(国、都道府県、市町村、国民健康保険団体連合会、指定サービス事業者)
12		介護保険制度の動向、改正の特徴
13		介護保険の申請をしてみよう
14	高齢者の権利擁護	虐待の現状と防止に向けた支援
15	これからの高齢者福祉	死生観、終末期ケア

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	障害者福祉論Ⅰ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	障害観と自立観、障害者の実態等の障害者福祉と、それらを支える法制度として障害者保健福祉制度について学ぶ。　同時に、障害者政策をめぐる国際動向と、障害者権利条約について学ぶ。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	障害観と自立観といった概念の学習ではグループワークによる意見交換を重視し、障害者総合支援法や障害者権利条約といった法制度の学習では、座学を重視する。これらの切り替えを効率的に行うため、授業中の小休止を適宜取り入れる。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	社会的差別に晒され易い障害に対する客観的かつ深い認識を持った福祉・介護職として利用者への支援を行うとともに、その支援の背景にある障害者福祉関係の法制度の概要を理解する。	
授業担当者	石田　麗		
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座②『社会の理解』 8最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座障害者福祉　適宜必要資料配布		
評価方法	授業態度（10点満点）・レポート内容（20点満点）・試験（70点満点）により以下の通り評価する。 A：80点以上、B：70～79点、C：60～69点、D：上記以外		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・現代社会における障害者福祉を学ぶ視点
2	障害者制度と障害者基本法と理念	・障害者制度と障害者基本法
3		・障害者福祉の理念
4	障害者の定義 関連データ	・障害者の定義と関連データ（身体障害者・知的障害者・精神障害者）
5		・障害者の定義と関連データ（障害児・発達障害者・性同一性障害）
6	関連する法律や 障害者支援 シンボルマーク	・障害者差別解消法、就労に関する支援、障害者に関するシンボルマーク
7		・社会参加の促進、身体障害者社会参加支援施設
8	障害者総合支援法	・障害者支援と障害児支援の全体像、障害者総合支援法の理念と目的、利用者負担、自立支援医療
9		・支給申請からサービス利用までの流れ、支給決定のプロセス
10		・区分による利用可能サービスとその内容の一覧、日中活動と住まいの場の組み合わせ
11		・地域生活支援事業、障害児支援について、相談支援機関、基幹相談支援センター
12	障害者権利条約の批准	・社会背景と障害者の状況、障害者権利条約
13	障害者差別解消法と障害者雇用促進法と障害者虐待防止法	・障害者差別解消法の概要、障害者雇用促進法の概要
14		・障害者虐待防止法の概要、精神保健福祉法における入院制度
15	まとめ	・まとめ

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	介護概論Ⅰ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	介護福祉の基本となる理念、介護の目的、機能、範囲を理解し、専門職業としての介護を理解する。また、介護実践に関連する諸制度を学び、利用者の尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護サービスを理解する。さらに、介護福祉の倫理とはを学び、介護福祉士の役割と機能を理解する。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、ノーマライゼーション、ICF、介護の倫理等から介護実践の基本姿勢について理解する。	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	4単位	人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活を営める生活環境を整えることが可能になり、危機管理、関係職種間の連携の在り方等が理解できるようになる。	
授業担当者	山田　英介		
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	中央法規　最新　介護福祉士養成講座　3　介護の基本Ⅰ・　4　介護の基本Ⅱ第2版　（中央法規）		
評価方法	出席率　授業態度　課題　試験		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護福祉士の専門性	介護福祉士会が提唱する「介護福祉士の専門性」から「実践する介護」について学ぶ
2	介護福祉士になるためには	カリキュラムから介護福祉士の意義を学ぶ
3	介護福祉士の倫理	介護福祉士倫理綱領の全文の理解と具体的内容について　介護福祉の理念と倫理
4		7つのグループに分かれて倫理綱領の説明書を作成（倫理基準・行動規範を含める）し発表
5		
6		
7		「介護の倫理」の実践と「尊厳ある介護実践」「自立に向けた介護」について
8		事例を用いて普遍的倫理判断の4つの視点を活用した判断と解決の手順
9		プライバシー保護／高齢者虐待と介護の倫理
10		倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応①人生の最終段階の場面（グループワーク）
11		倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応②身体拘束の場面（グループワーク）
12		倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応③認知症ケアの場面（グループワーク）
13	介護福祉の機能と役割	介護福祉士の「3つの機能」
14		介護福祉士の役割　介護福祉士業務の専門性の条件

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	到達度確認	全期間の授業内容の振返り（評価対象課題）
16	介護福祉を必要とする人の理解	生活の理解（生活の要素・特性）
17		
18		
19		
20		介護福祉を必要とする人たちの暮らし
21		「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解
22		「その人らしさ」の背景と介護福祉における活用
23		「生活ニーズ」の理解と個々のニーズとの向き合い方
24		生活のしづらさについて考える
25		日常生活から考える「生活のしづらさ」
26		「生活のしづらさ」に対する支援
27		家族介護者への支援
28	介護福祉士の活動の場と役割	5つのグループに分かれて介護福祉士に求められている役割についてまとめ発表する
29		
30		

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	介護概論Ⅱ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	1. 介護の目的、機能、範囲を理解し専門職業として介護を必要とする人の理解をする。2. 人間の発達と生活についての知識を持ち、介護を必要とする人の生活を支えるしくみついて学ぶ。3. 身体・精神の健康状態の変化に介護福祉士として対処できる能力を養い、同時に保健医療関係者および連携、協力の在り方について学ぶ。4. 病気や遭遇しやすい事故の知識を持ち、介護福祉士として対処しうる予防方法について学ぶ。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、介護従事者の倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全など専門職業としての概念をもとに尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解、介護サービス、介護実践における連携などの理解を微視的に深める。	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	4単位	1介護に関する知識と技術への理解を深める 2介護福祉士としての役割、責任を認識し、自身の介護観を確立できる 3介護福祉サービスの提供方法、多職種連携手段を判断できる	
授業担当者	山田　英介		
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	介護の基本Ⅰ・Ⅱ（中央法規出版）		
評価方法	受験資格：出席率80%以上　評価方法：定期試験　60点以上合格　59点以下不合格		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護の歴史と介護問題の背景	介護の歴史（介護の制度化の歩み）・介護問題の背景（少子高齢社会と老々介護、介護の社会科について）
2		介護福祉士の義務規定違反と罰則・専門職能団体の活動
3	尊厳を支える介護	法律と尊厳の保持・重要視されるQOL
4		ノーマライゼーション・利用者主体の考え方
5	自立に向けた介護	自立支援・個別ケア
6		ICFとICIDH
7	介護の視点とリハビリテーション	リハビリテーションの考え方
8		リハビリテーションの種類と専門職
9	介護を必要とする人の理解	人間の多様性・複雑性の理解・高齢者の理解
10		高齢者のくらしと地域の繋がり・高齢者の経済生活と世話の費用
11	障害のある人の暮らしの理解	障害者を取り巻く状況
12		障害のある人の暮らしの実際
13	介護を必要とする人の生活環境	環境の理解
14		介護者を支援する制度

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	介護サービス ケアマネジメント	介護サービスの概要・ケアプランについて
16		介護支援専門員と主任介護支援専門員
17	介護サービス サービス提供の場	居宅サービス・地域密着型サービス
18		施設サービス
19	介護実践における 連携	多職種連携（チームアプローチ）
20		地域連携
21	介護従事者の倫理	連門職としての職業倫理
22		人権と介護・プライバシー保護
23	安全の確保と リスクマネジメント	リスクマネジメント
24		事故防止、安全対策の組織的な取り組み
25	リスク対策の実際	生活空間と道具の安全確保
26		感染症の感染経路と考え方
27	介護従事者の安全 確保	こころとからだの健康管理
28		安全に働くための法律
29	個人の介護観と 他者の介護観	「あなたの介護観とは」レポート作成
30		グループワーク「あなたの介護観とは」の共有

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	チームケア論		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	協働する多職種の役割と機能を学ぶ。 介護における安全の確保とリスクマネジメントを学ぶ。 介護従事者の安全を考える。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	ケアマネジメント、ケアプラン、ケースカンファレンスの意義、方法を学ぶ。事例をもとにケアプラン、ケースカンファレンス、ヒヤリハットをグループ学習から学ぶ。ケアマネジメント及び、ケアプランの流れと仕組みを通し、生活の場の特性や地域連携の在り方についての理解を深めるようになる。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	チームとして利用者や集団のニーズを捉え介護方向を見出せる。ケアマネジメントの理解ができ、ケアプランと介護計画の関係性が理解できる。そのうえでの多職種連携の実践に利用者の生活を持続させる視点を養う。	
授業担当者	隈本　つばさ		
実務家教員	○	老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	適宜必要資料配布		
評価方法	出席率、授業態度、提出物、試験		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	多職種の種類と機能と役割の把握と理解	多職種連携に必要な知識。他職種の専門性、役割の理解。
2	介護実践における連携の理解	連携の主となる社会福祉関係職種・医療関係職種の理解。
3	地域連携について	地域連携3つのレベルについての講義。
4	演習（グループワーク）	事例に基づきグループワーク。
5	演習（グループワーク）	事例に基づきグループワーク。
6	演習（グループワーク）	事例に基づきグループワーク。
7	演習（グループワーク）	事例に基づきグループワーク。
8	演習（グループワーク）	事例に基づきグループワーク。
9	演習（グループワーク）	事例に基づきグループワーク。
10	演習（グループワーク・発表）	各グループ発表。
11	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。。
12	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。。
13	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。。
14	総まとめ（発表）	多職種連携・社会資源活用についての発表。
15	総まとめ（発表）	多職種連携・社会資源活用についての発表。総まとめ講義。

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	リハビリテーション論	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	1. リハビリテーション、ノーマライゼーションの意義について理解する 2. 障がいの種別によるリハビリテーションの展開を理解する 3. 病院・施設・在宅リハビリテーション役割と連携について理解する
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	1. リハビリテーションにおける尊厳を支える介護の考え方、自立に向けた介護展開方法を学ぶ 2. 福祉用具の意義と活用。実際のリハビリテーションにて使用する福祉用具を呈示し、支援方法を深める
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	1. 身体の各部位の構造が理解でき、適切なリハビリテーション方法が判断できる 2. リハビリテーションの制度について社会・地域との関わりを理解できる 3. 社会的自立に向けてのリハビリテーションのあり方を考察できる
授業担当者	荒木　絢子	
実務家教員	○	総合病院における理学療法士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	リハビリテーション医学・医療コアテキスト（医学書院）	
評価方法	受験資格：出席率80%以上　　評価方法：定期試験　60点以上合格　59点以下不合格	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	リハビリテーションの理念と歴史的変遷	リハビリテーションの歴史や、根本的な意味、目的、考え方を学ぶ
2	ICDHとICF	ICIDHとICFの歴史と、ICFの考え方を学ぶ
3	リハビリテーション領域とサービス	各職種によるリハビリテーションの領域を学ぶ
4	高齢化による機能障害とリハビリテーション	高齢による身体的・精神的変化とそれぞれの対応について
5	高齢化による機能障害とリハビリテーション	高齢による身体的・精神的変化とそれぞれの対応について
6	身体障がいによる機能障害とリハビリテーション	身体障害の分類や、身体の機能的変化、それぞれに対するリハビリテーションアプローチについて
7	身体障がいによる機能障害とリハビリテーション	身体障害の分類や、身体の機能的変化、それぞれに対するリハビリテーションアプローチについて
8	知的障がいとリハビリテーション	知的障害者に対するリハビリテーションアプローチ
9	精神障がいとリハビリテーション	精神障害者に対するリハビリテーションアプローチ
10	リハビリテーション介護と介護技術の基本	介護に対するリハビリテーションの視点とそれに対するアプローチ方法
11	福祉用具、住居の改造、福祉のまちづくり	福祉用具、住宅改修、まちづくりに対する考え方を学ぶ
12	地域リハビリテーション	暮らしやすさのための環境について学ぶ
13	リハビリテーションの立案・指導・チームアプローチ	リハビリテーションアプローチまでのプロセスを学ぶ
14	ICFの視点に基づいた利用者へのアセスメント	ICFを用いた実際のアセスメントについて学ぶ
15	事例に基づく自立支援と社会生活能力の維持・拡大に向けての援助	リハビリテーションアプローチの実際

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	形態別コミュニケーション		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	介護を必要とする人とのコミュニケーションを実践的に学ぶ。人間関係の形成・障害への支援的対応・情報授受や保管に関する文書記録の技術等、障害の特性に応じたコミュニケーション技術の必要性を学び、習得する。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	基本的なコミュニケーション方法を理解する。(手話・点字・実践演習) 利用者・家族に応じたコミュニケーション・態度を学ぶ。 介護におけるチームのコミュニケーションを学び、情報の共有化活用方法を理解する。 (1～10:手話　11～20:点字　21～30:実践演習)	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	4単位	介護従事者としての言葉と対応を意識し、実践できるようになる。 利用者・家族との信頼関係を築くことができる。 情報に応じた適切な共有方法を判断できる。	
授業担当者	塚田祥子(手話)、笠原昭雄(点字)、山田英介(実践演習)		
実務家教員	○	介護福祉士、養護教諭、手話通訳士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	コミュニケーション技術(中央法規)		
評価方法	・出欠状況　・試験		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	挨拶表現	聴覚障害とは、手話の基礎・コミュニケーション手段
2	聞こえるとは	耳の構造、役割、手話による自己紹介
3	数字・時間の表現	聴覚障害者の生活・心理について
4	疑問の表現	聴力レベル・補聴器、手話による疑問表現基礎
5	可能・否定	手話を活用した可能・否定の表現方法基礎
6	手話表現留意点	ろうあ教育、接続に関する手話の基礎、手話表現留意事項
7	労働問題	聴覚障害の方の労働環境、労働問題
8	ろうあ協会	聴覚障害の方とのコミュニケーション、ろうあ協会について
9	重複障害について	重複障害者が抱える問題とは、指文字基礎。
10	手話通訳の資格	手話表現の留意点、手話通訳の資格制度、聴覚障害者の願い
11	視覚障害とは	視覚構造と原因、重複障害について
12	点字について	視覚障害者の歴史、点字の歴史、点字の意義
13	点字器使用方法	点字器の使用方法、点字の打ち方・読解(50音表)
14	点字の打ち方	数字・アルファベッドの打ち方。

15	点字の読解	名刺・童謡を活用した読解方法
16	視覚障害疑似体験	アイマスク体験
17	視覚代行と福祉用具	点字を使った住宅配置図、福祉用具の使用方法
18	外国語の読解	日本語以外の英単語等を点字に当てはめ、理解する
19	点字を使った手紙の書き方	点字郵便の取り扱い方法、点字を使って文章・報告書を書く
20	日常生活留意点	視覚障害者の日常生活に焦点を当て、留意点について学ぶ
21	自己開示 自己覚知	ジョハリの窓、バイステックの原則により受容・共感・傾聴の理解
22	挨拶 身だしなみ 音声表現	尊敬語・発音・発声練習・クッション言葉について学ぶ
23	コミュニケーション事例	介護施設で実際に起こり得る事例を基に、対応方法をグ―ループワークにて検討。
24	事例について ロールプレイング①	事例や、今までの卒業生が実際に遭遇した場面を基に、適切・不適切な対応をロールプレイして学ぶ。
25	事例について ロールプレイング②	事例や、今までの卒業生が実際に遭遇した場面を基に、適切・不適切な対応をロールプレイして学ぶ。
26	記録の種類と方法	専門用語の確認、説明、常用漢字を改めて理解する。
27	記録の保存と整理	報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）の重要性と確認、IT活用にて文章作成
28	インシデント アクシデントについて	「ヒヤリハット」について理解を深め、インシデント・アクシデントレポートの記録方法を学ぶ
29	ケアカンファレンスについて	カンファレンスの重要性・意義・目的について
30	苦情対応について	苦情に対する対応方法、電話対応での基本事項を学ぶ。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	生活支援技術（概論）		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身に付ける。生活支援の基礎を理解する。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	利用者の生活を考え、生活支援のあり方を学ぶ。基本てきな介護技術に必要な知識を、その他の科目と結びつけながら学ぶ。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	基本的な介護技術の理解。個別ケアの必要性を理解する。	
授業担当者	隈本　つばさ		
実務家教員	○	老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ第2版（中央法規・メジカルフレンド）		
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明など。
2	生活支援の基本的な考え方	介護者として、利用者の「生活」支援を行うための視点、自立支援の考え方の理解を深める。
3	自立に向けた睡眠の介護	1人ひとりの生活習慣の違い・個別性を理解し、睡眠における利用者への対応方法について学ぶ。
4		ベッドメイキングについて学ぶ。
5	自立に向けた移動の介護	福祉用具の種類や福祉用具の活用方法について学ぶ。
6		利用者に合わせた移動介助方法を学ぶ。
7	自立に向けた着脱の介護	利用者の身体状況をアセスメントし、その利用者に合わせた介助方法や利用者の残存機能をいかせる介助方法を学ぶ。
8		寝たきりの利用者への介助方法を学ぶ。
9	自立に向けた身じたくの介護	人それぞれの生活習慣の理解や身じたくの必要性を学ぶ。
10		整容（洗顔・整髪・爪の手入れ・耳の手入れ・ひげ剃り・化粧など）の介助方法を学ぶ。
11	自立に向けた食事の介護	食事の意義・目的、食事介助方法について学ぶ。
12		利用者に合わせた食事形態や、治療食について学ぶ。
13	自立に向けた排泄の介護	排泄介助（トイレでの介助、ポータブルトイレでの介助、尿器・便器での介助・オムツ交換）について学ぶ。
14		排泄のメカニズム、尿失禁・便失禁等について学ぶ。
15	人生の最終段階における介護	利用者やそのご家族に対する支援について学ぶ。

総合福祉学科			2024/4/1
科目名	生活支援技術（住居）		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	生活者の自立に向けた、快適で安全な住環境の整備に必要な知識と技術を身につける。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	自立に向けた、快適で安全な住居のあり方と、それを実現する技術と方法。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	自立に向けた住環境の整備を理解し、実現できる。	
授業担当者	外山　知徳		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献			
評価方法	出席状況、授業中に実施する課題の成績、テストの成績を基に評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	住生活を構成するカテゴリーと生活者の自立	住まいと役割について学ぶ
2	住環境をめぐる今日の諸問題	現代社会と求められる住環境について
3	環境共生住宅―省エネルギーと省資源	住要求の変化について
4	快適な室内環境と健康―明るさの測定	快適な室内環境を整備するための基本的事項をおさえる
5	住まいの安全―耐震構造・免震構造・制震構造	日常安全・災害に対する備えについて
6	地震防災―過去の地震に学ぶ	自然災害に対する予防と安全な避難について学ぶ
7	静岡県地震防災センターの見学	静岡県地震防災センターの見学
8	人間関係を含んだ生活空間―居場所づくりとアイデンティティー	家族と生活空間について
9	テリトリー形成能力	パーソナルスペース（個人空間）について
10	バリアフリーのチェックポイント	日本家屋の問題とバリアフリー
11	住み分けと住宅改修	介護保険制度で利用できる住宅改修・福祉用具
12	福祉のまちづくり：移動の介護とバリアフリー	地域包括ケアシステムについて
13	集住の諸形態	現代の集住の諸形態について
14	個室とユニットケア	プライベートスペース、パブリックスペースについて
15	テスト	後期試験の実施

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	生活支援技術（被服）	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	すべての人が快適な衣生活を営むにはどうしたらよいかを学び、自立に向けた身支度の介護に繋げる。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	衣服の機能・素材の種類・素材の性能・購入・手入れの仕方・環境・資源に至るまで広い範囲で学習する。手芸作品を製作する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	衣服を着ているのは人間だけであり、人間を特徴づけている文化の一つでもある。よりよい衣生活創造するとはどういうことかを理解する。
授業担当者	伊藤　知圭子	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	中央法規　介護福祉士国試ナビ	
評価方法	授業態度・出席状況・作品提出状況・レポートを総合的に評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 被服の役割	被服の役割を考える
2	被服素材の種類と性能	被服はどのような素材なからできているのか、理解する。
3	繊維の種類と特徴	被服の表示を調べ、品質を理解する
4	手縫いの基本	手縫いの基本を学ぶ
5	手縫い演習	エコバッグ製作を通して、手縫い、ボタン付け、スナップ付け、面ファスナー付け、ボム通しを体験し学ぶ
6		
7	手縫い演習	
8		
9	和服の基礎知識	和服の基礎知識を学び、理解する
10	和服の実際	浴衣を使用し、和服のたたみ方、着付けを体験する
11	レクリエーションを兼ねた手芸	介護現場で実際に使用されるお手玉を製作する
12		
13	被服の手入れ	汚れの落ちる仕組みを理解し、洗濯、染み抜き、漂白の方法を学ぶ
14	被服の手入れ	被服の仕上げ、保管方法を理解し、アイロンがけを体験する。
15	まとめ	授業の振返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	生活支援技術(調理)		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	高齢者の状況、及び介護士自身にあった栄養と調理について専門的知識・技術を身につけ、利用者の身体と心の健康づくりに役立て、潤いある充実した食生活を創造できる力を育む。自立に向けた家事の介護を学ぶ。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	高齢者の状況、及び介護士自身にあった栄養と調理について理解し、「食」が楽しみや満足感など、利用者の生活に潤いを与える自立に向けた家事と生活支援者としての重要性を学ぶ	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	食文化や食生活の変化をはじめ、介護士が職の支援をするうえで必要知識を養う	
授業担当者	伊藤　知圭子		
実務家教員	○	総合病院における調理師としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	中央法規　介護福祉士国試ナビ		
評価方法	授業態度・出席状況・作品提出状況・レポートを総合的に評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 食事の意義と目的	食生活の意義と栄養についての基礎知識の確認
2	栄養の理解	5大栄養素を理解する
3	献立の立て方	食事バランスｶﾞｲﾄﾞを活用し、献立作成の手順を学ぶ
4	調理の基礎知識	調理実習に向け、調理に関する基礎知識を確認する
5	調理実習	様々な調理器具、加熱器具を扱うことで、決められた時間内に調理をする工夫を身につける 電子レンジを活用した調理を経験する
6		
7	高齢者の食事と調理実習	高齢者の食に関する身体的特徴と支援のあり方を学び、 食品･調理形態･味付けによる高齢者への配慮を理解し、調理実習を通して身につける
8		
9	調理実習	パッククッキングを活用し、災害時等多様な調理の工夫を身につける
10		
11	食生活に関する施策 食中毒の防止	健康を守るための取り組みを学び、食品を安全においしく食べる知識を身につける
12	楽しい食事の演出	おいしい食べ物をよりおいしく食べるために、食空間を演出する工夫を学ぶ
13	調理実習	高齢者へ配慮した、食品･調理形態･味付けで調理する工夫を、 献立を作成し、調理実習を通して身につける
14		
15	まとめ	授業の振返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	生活支援技術Ⅰ（介護）	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。自立に向けた移動の介護・自立に向けた食事の介護・自立に向けた入浴・清潔保持の介護・自立に向けた排泄の介護・休息、睡眠の介護・人生の最終段階における介護を学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	生活支援技術Ⅰ（概論）とつながりをもち、実際に介護実習室で安心・安全な介助ができるようになるための実技を行う。
授業回数	30回	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	基本的な介護技術の理解。安心・安全な介助ができる。個別ケアの必要性を理解する。
授業担当者	隈本　つばさ 加藤　浩和	
実務家教員	○	（隈本）老人保健施設における介護福祉士としての実務経験 （加藤）特別養護老人ホーム、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ第2版（中央法規）、適宜必要資料配布	
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明など。
2	介護における自立支援の考え方	人間の尊厳のとらえ方と自立支援について、日本国憲法も含め学ぶ。個別性・個別性の尊重について、ワークを使い学ぶ。
3		生活支援の基本的視点・考え方について学ぶ。ICF・ICIDHについても学ぶ。
4	自立に向けた睡眠の介護	実習室の使い方から、睡眠についての学習と居室整備・ベッドメイキングの実技。
5		ベッドメイキングの実技。
6		ベッドメイキングの実技。
7		ベッドメイキングの実技。
8		ベッドメイキングの実習を終えて、実技試験。
9	自立に向けた移動の介護	移動について・ボディメカニクス・体位変換について学ぶ。実際に体位変換を実践する。
10		
11		歩行介助について学ぶ。歩行介助に必要な福祉用具に関しても学ぶ。
12		車いす介助について学ぶ。
13	まとめ	12回までのまとめ試験を行う。
14	自立に向けた着脱の介護	着脱の意義・目的について。介助方法を学ぶ。座位の利用者様に対しての着脱介助の実践。
15		座位の利用者様に対しての着脱介助の実践。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	自立に向けた着脱の介護	ベッド臥床している利用者様に対しての着脱介助の実践。
17		ベッド臥床している利用者様に対しての着脱介助の実践。
18	自立に向けた身じたくの介護	身じたくの目的・整容（洗顔・耳の手入れ・整髪・ひげ剃り・爪の手入れ・化粧）の介護技術について学ぶ。
19		
20	自立に向けた食事の介護	食事介助をうける利用者様を体験する。
21		前回の授業を参考に、食事介助のポイントを学ぶ。また、食事後の口腔ケアについても学ぶ。
22	自立に向けた排泄の介護	排泄の介護に関するポイント・尿便失禁についての学び・排泄介助のフローチャートからの利用者様に合わせた排泄介助について学ぶ。
23		トイレでの排泄介助について学ぶ。
24		ポータブルトイレ・尿器・便器での排泄介助について学ぶ。
25		おむつ交換について学ぶ。
26		自立に向けた排泄の介護で学んだ介助を実践する。
27	人生の最終段階における介護	人生の最終段階の意義や介護の役割・人生の最終段階における介護について学ぶ。
28	試験に向けてまとめ	これまでの授業の要点や、過去問も用いて復習をする。
29		
30	試験	

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	相談援助実習		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	社会福祉関係の各種機関・団体、施設でのソーシャルワーク実習を通して、以下のねらいをもつ。 ① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ② 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 ③ 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	「施設・機関における相談援助活動の理解」、「援助対象者・家族の理解」、「施設が設置されている地域、またはクライエントが生活している地域の理解」、「個別・集団・地域援助方法の理解」、「他専門職とのチームアプローチの理解」などが含まれる。	
授業回数	80時間（10日間）		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	第5期実習を踏まえ、より高度な実践的スキルを身に付けた専門職として、各種の福祉・介護現場において活躍できる技術・方法を獲得する。 1) 社会福祉主事と社会福祉士の指定科目の知識と技術を統合し、相談援助に従事する専門職としての価値と倫理に基づく支援を行う実践力を養う。 2) 支援が必要な人々と地域社会の状況を理解し、生活課題とニーズを把握する。 3) 生活課題とニーズに対応するため、クライエントのストレングスの観点を重視し、フォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した個別支援計画を立案する。 4) 実習先が地域社会において果たしている役割を具体的に理解する。 5) 総合的・包括的支援を行うため、実習先が行っている関係機関・団体との連携、地域住民との連携、そして、施設内での多職種連携を具体的に理解する。	
授業担当者	井川　真世 石田　麗		
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験 障害者支援施設における相談員としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	・最新　社会福祉士養成講座　８　ソーシャルワーク実習指導　ソーシャルワーク実習　［社会専門］（中央法規） ・『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 』過去のテキスト 辞典 福祉小六法など		
評価方法	実習指導者の評価、実習巡回教員の評価、実習担当教員の評価を総合して行う。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
	第6期実習	社会福祉現場実習と相談援助実習、両実習を通して、以下の10の内容を盛り込み指導を受ける。具体的には、学生が作成した実習計画を反映できるよう、事前オリエンテーションにおいて、学生と実習指導者間で協議・検討し、実習プログラムを決定していただく。 ※第5期社会福祉現場実習終了前に指導を受けた第6期相談援助実習での目標・計画、課題も含む。（第5期より継続した実習内容であることが望ましい） 1) クライエントやその関係者（家族・親族・友人等）、そして、関係機関・団体、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成を行う。 2) クライエントやその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成を行う。 3) クライエントや地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び　評価を行う。 4) 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価を行う。 5) 多職種連携とチームアプローチのあり方を実践的に理解する。 6) 実習先が地域社会の中で果たす役割と具体的な地域社会への働きかけを学ぶ。 7) 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発について理解する。 8) チームマネジメントや人材管理など、実習先の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ。 9) 社会福祉士としての職業倫理と組織内における社会福祉士の役割や責任について理解する。 10) アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションといったソーシャルワーク実践に求められる技術を実践的に理解する。 <br　概ね週１回の実習担当教員による実習巡回、同様に、概ね週１回の実習指導者によるスーパービジョンを行いながら、実習内容、指導方針を微調整していく。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	生活支援技術Ⅱ（介護）		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。自立に向けた移動の介護・自立に向けた食事の介護・自立に向けた入浴・清潔保持の介護・自立に向けた排泄の介護・休息、睡眠の介護・人生の最終段階における介護を学ぶ。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	各領域の知識をつかい（介護過程Ⅰ Ⅱに基づき）、利用者１人ひとりにあった介護技術を考え、実践につなげる。	
授業回数	15回		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	ICFの概念に基づいたアセスメントを行うことで個々の生活活動の違いや、気づいた変化を基に、系統的に捉え支援できるようになる。根拠ある技術を理解する。	
授業担当者	隈本　つばさ 加藤　浩和		
実務家教員	○	（隈本）老人保健施設における介護福祉士としての実務経験 （加藤）特別養護老人ホーム、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ第2版（中央法規・メジカルフレンド）、適宜必要資料配布		
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明など。
2	基本的介護技術の復習（個別演習）	各介護技術をグループごと復習する。
3	基本的介護技術の復習（個別演習）	各介護技術をグループごと復習する。
4	基本的介護技術の復習（個別演習）	各介護技術をグループごと復習する。
5	基本的介護技術の復習（個別演習）	各介護技術をグループごと復習する。
6	基本的介護技術の復習（個別演習）	各介護技術をグループごと復習する。
7	自立に向けた入浴の介助	入浴の意義・目的や、入浴介助について学ぶ。
8		清拭の意義・目的や、介助方法を学ぶ。
9	基本的介護技術の復習（個別演習）	各介護技術をグループごと復習する。
10	第3期実習を終えての介護技術の振り返り	第3期実習先での技術方法の情報交換。
11	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。
12	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。
13	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。
14	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。
15	まとめ　レポート	1年次からの生活支援技術（介護）のまとめレポート。

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	レクリエーション論	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	1 レクリエーションの手段と主旨を理解する 2 レクリエーション支援の目的と方法を理解する 3 レクリエーション・インストラクターの役割を理解する
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	「レクリエーションの概論」「楽しさと心の健康作りの理論」「レクリエーションの支援理論」「レクリエーション支援のプログラム」を、それぞれの学科の特性に合わせた理解。レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組みと、その仕組みを根拠とした支援。ライフステージごとの心の元気作りとともに、地域とのきずな作り。信頼関係が築かれる心理的な仕組みと、コミュニケ―ション技術。自主的、主体的に楽しむ力を育む活動の展開と、動機付けの心理的仕組みの理解。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	1 レクリエーションの意義と目的、インストラクターとしての姿勢と役割を理解する。 2 レクリエーションにおけるリスクマネジメントを踏まえた視点を養い、プログラムの立案ができる
授業担当者	和久田　一夫	
実務家教員	○	障害者施設における福祉レクリエーションワーカー
使用テキスト 参考文献	随時プリント配布	
評価方法	授業態度、出席率、課題提出、試験の総合、評価	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業・実践のガイダンス	授業概要について。
2	レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの役割とは	レクリエーション支援と、レクリエーション・インストラクターのかかわりについて。
3	楽しさを通した心の元気づくり、対象者の心理面への理解	介護者と対象者のかかわり、心理面への働きかけについて。
4	活動そのものの楽しさを感じるこころの仕組み、こころの仕組みを根拠とした支援の在り方	介護者と対象者のかかわり、心理面への働きかけについて。活動内容例をもとに理解。
5	ライフステージに応じたこころの元気づくり	対象者に合わせたレクリエーションの違いについて。
6	子ども、高齢者、障害者を支える地域の絆とレクリエーション	レクリエーションの地域領域・地域のコミュニティ推進について。
7	対象者との信頼関係の構築とホスピタリティ	レクリエーションにおける信頼関係構築の心得について。
8	レクリエーション支援におけるコミュニケ―ション技術	レクリエーション支援におけるコミュニケ―ション技術について。
9	レクリエーション活動を通した良好な集団作りと、集団内でのコミュニケーションの促進	集団でのレクリエーションについて。
10	自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ支援のための、やる気が生じるこころの仕組み	やる気に応じたスプレッドについて。
11	成功体験に導く支援と、成功体験を支え合う対象者同士のかかわり合い	成功体験に導く支援によって、対象者にある効果について。
12	支援計画書の考え方、作成	2年次に向け、支援計画について学ぶ。
13	事業の展開（魅力ある行事を考える）	レクリエーション事業について。
14	事業を展開する（行事をつくるプロセス）	レクリエーション事業について。
15	まとめ・試験	レクリエーション論のまとめ・後期試験の実施。

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	レクリエーション活動援助法	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	高齢化社会の中で、人間らしく人生を全うするとは、生活支援とはどのようなことかの理解
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	レクリエーション基礎理論及び人間の尊厳とは何かの援助論・演習を基本とする
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	人間にとって、人生を全うするための明日につながる楽しみとは何なのかの理解
授業担当者	和久田　一夫	
実務家教員	○	障害者施設における福祉レクリエーションワーカー
使用テキスト 参考文献	レクリエーション活動援助法（中央法規）福祉レクリエーション援助の方法（中央法規）福祉レクリエーション総論（中央法規）福祉レクリエーション援助の実際（中央法規）福祉施設におけるレクリエーション援助のあり方	
評価方法	援助演習実技評価　　筆記試験　レクリエーション援助案評価	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	レクリエーション基礎理論	レクリエーションが生活全般の援助・支援の視点が必要であるということの理解。
2	福祉レクリエーション基礎理論	福祉レクリエーション支援の特徴の理解。
3	コミュニケーションワークとホスピタリティーの理解	もてなしの意識を持ちながら、参加者の立場び立って対応することの理解。
4	レクリエーション援助の理念	レクリエーションが参加者にもたらすものの理解。
5	レクリエーション財の理解	レクリエーション財に必要な知識の習得。
6	アレンジ法の理解	レクリエーション財に必要な知識の習得。さらにアレンジの仕方をフォロー。
7	対象者の生活及び心理的欲求理解	人間の心理について。
8	ICFとレクリエーションの理解	ICF理論の裏付けのレクリエーション支援について。
9	生活自立を目指したリハビリ指向レクリエーション援助の理解	レクリエーションとリハビリテーションのつながりについて。
10	レクリエーション援助プロセス	レクリエーション援助プロセスについて。
11	尊厳とレクリエーション援助の実際	尊厳とレクリエーション援助の実際について。
12	事業の企画・運営の基礎	事業の企画・運営の基礎について理解し、実施に活かす。
13	安全と評価	安全と評価の項目について理解。
14	高齢者施設におけるレクリエーション援助のあり方	高齢者に対してのレクリエーション援助方法の理解。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	レクリエーション援助案作成	実施計画案作成。
16	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
17	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
18	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
19	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
20	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
21	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
22	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
23	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
24	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
25	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
26	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
27	レクリエーション援助演習総括	レクリエーション援助演習総括
28	レクリエーション援助Ｑ＆Ａ	レクリエーション援助実践を終えての質疑応答。
29	コミュニケーションワークQ&A	レクリエーション援助実践を終えての質疑応答。
30	筆記試験	前期試験の実施

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	介護過程Ⅰ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	介護過程の意義と基礎的理解を学ぶ。介護計画の意義を考え、個別性・尊厳・倫理に基づいた介護過程の展開ができるよう、基本的な介護過程の構成、ICFに対する理解を深める。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	各教科で学んだ知識や技法、技術を統合し、個別の生活課題に向かい合える能力を養う。個別のニーズ、課題を明確化し、潜在能力を引き出すためのアセスメントを行い、自立支援に沿った介護計画の在り方について理解を深める。
授業回数	45回	
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	6単位	アセスメント、立案、実施、評価の展開を理解し、多職種協働によるチームアプローチの重要性を理解する。介護過程の理論と実習体験を関連づけながら、来年度の介護計画実習への能力が養われる。
授業担当者	石田　麗	
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	中央法規　介護福祉士養成講座9　介護過程　第2版　・　適宜必要資料配布	
評価方法	授業態度（10点満点）・課題内容（20点満点）・試験（70点満点）により以下の通り評価する。 A：80点以上、B：70～79点、C：60～69点、D：上記以外	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	・シラバス説明。 ・利用者への声かけと利用者に必要な具体的な支援方法の考え方
2	介護過程の必要性	・日本介護福祉士会が提示する介護福祉士の専門性を基に必要性
3		・日本介護福祉士会が提示する介護福祉士会倫理綱領 ・日本の福祉の歴史について
4	介護過程とは	・課題解決に向けての思考と実践の過程であることを「課題」「目標」「目的」の違いを理解し、具体的に考える
5		・目標志向型アプローチの検討の必要性
6	介護過程の構成要素 ①アセスメント	・情報収集とは
7		・ICFとICIDHの移り変わりとICFを活用する理由
8		・情報をICFに振り分けるワーク ・情報の解釈・関連付け・統合化について（ニーズの意味を考えるワーク）
9		・前回に引き続きニーズの意味を考えるワークからニーズを導き出すワーク ・ICFに落とした情報同士の関連付け方を学び、生活上の課題とは何か
10	介護過程の構成要素①アセスメント②計画の立案（目標）	・ニーズの優先順位について（マズローの欲求段階層説を基に学ぶ） ・介護計画の立案について（介護目標とは何か）
11	介護過程の構成要素 ②計画の立案（目標） （具体策の決定）	・目的、目標、手段を理解し、ニーズを充足するための目標・手段を設定するワーク ・具体的な支援内容・支援方法とは何か
12	介護過程の構成要素 ③実施④評価	・具体策から実施の実際 ・評価の4つの視点
13	介護過程の構成要素 ①アセスメント～ ②計画立案　ワーク	・アセスメントの実際（ニーズの明確化）
14	介護過程の構成要素 ①アセスメント～②計画立案　ワーク 介護過程構成に関する確認テスト	・グループワーク結果の共有 ・第１期実習で観た「活動」と「参加」の促進と制限についての明確化
15	復習（15コマ分）	・介護過程の構成要素に関する確認テスト実施 ・グループワーク　確認テスト直しと情報共有

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	復習（15コマ分） 展開の基本視点	・解説と内容確認（到達度把握） ・8つの基本視点
17	展開の基本視点	・ICFに基づく利用者像の把握・尊厳を守るケアの実施・生活と人生の継続性の尊重・生きがいや役割のある生活・個別ケアの実践
18		・生活の自立支援・多職種協働・連携・根拠に基づく介護実践と的確な記録
19		・介護過程とケアマネジメントの関係性
20		・介護過程とケアマネジメントの関係性についての事例検討（GW）
21	アセスメント・立案攻略	・介護過程の展開過程の復習 ・アセスメント（情報収集・情報の分析・関連付け・統合化）の実際
22		・介護過程の展開過程の復習 ・アセスメント（情報収集・情報の分析・関連付け・統合化）の実際
23	事例展開	・グループワークで事例で介護過程の展開を行う（グループスーパービジョンの実施）
24		・課題『事例展開』：評価対象課題（要提出）
25	事例展開解説	・課題として事例展開した内容に対して解説と自己修正
26	実施・評価攻略	・介護過程の展開の中の実施と評価の内容について
27	普遍的生命倫理原則	・介護倫理の実践と尊厳ある介護実践について
28		・高齢者の身体拘束・虐待事例から普遍的生命倫理原則を用いた「倫理的判断」と「倫理に基づく介護の在り方」のグループワーク
29	アセスメントの実際 （情報収集）	・グループワークにてアセスメントシート①の情報収集を行う アセスメントシート①の書き方を確認
30	考察について	・第2期実習に向けて、記録の書き方についての確認。（考察の書き方について）
31	○第2期を終えて支援技術の確認 ○第2期を終えて事例作成①	・第2期実習で行った生活支援技術の内容を振り返り、活動や参加に結びつけ、促進する要因と制限してしまっている要因を考える。 （チェックリストと振り返り込み）
32		・第2期実習で行った生活支援技術の内容を振り返り、活動や参加に結びつけ、促進する要因と制限してしまっている要因を考える。 （チェックリストと振り返り込み） ・第2期実習で作成したアセスメントシート①から事例作成に入る
33	事例作成②	・個人ワーク 事例作成→提出（評価対象課題）
34		・情報収集のポイントについて（提出した事例を使用）
35	福祉の基本をみつめる	・クリスマスキャロルを見て、幸福と福祉の違いを再確認する。
36	事例作成③	・グループワーク 事例作成
37		・グループワーク 事例作成
38	事例作成④	・グループワーク 事例作成
39		・グループワーク 事例作成
40	事例作成⑤	・グループワーク 事例作成
41		・グループワーク 事例作成　→　グループで1部提出して終了
42	まとめ①	・展開の基本視点の振り返りと活かし方
43	まとめ②	・アセスメント攻略法についての振り返り
44	まとめ③	・実施・評価攻略法についての振り返り
45	試験	

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	介護過程Ⅱ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	「介護過程Ⅰ」で学んだ介護過程をもとに、実際に様式を活用して展開できることを目的とする。 介護過程の展開により作成した介護計画は、対象者を中心に据え、QOLを高めるものであること。さらに、他職種との連携を伴うチームアプローチができるものであること。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	1. 介護過程の構成要素や展開のしかたについて説明することができる。 2. 所定の介護過程の様式を使って、介護過程を展開することができる。 3. 利用者中心に据え、利用者の尊厳、QOLを目指した介護計画の重要性が理解できる。 4. 他職種協働のチームアプローチの重要性が理解できる。
授業回数	30回	
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	利用者理解を図り、情報収集を行い、分析、解釈に基づき介護内容や方法を計画できるようになる。学んだ知識や技術を統合させ、応用させながら個人に適した計画が立案できるようになる。
授業担当者	加藤　浩和	
実務家教員	○	特別養護老人ホーム、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	中央法規　介護福祉士養成講座9　介護過程　・　適宜必要資料配布	
評価方法	出席率、授業態度、課題、試験	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護過程Ⅰ復習	介護過程の道筋の理解
2		ケアプランと介護計画の違いについての理解
3	作成事例検討1	第2期実習における情報収集から介護計画立案(個人ワーク)
4		介護計画立案をグループで共有。グループで介護計画を作成
5	作成事例検討2	・事例のアセスメント。アセスメントシート①②③、ICF(個人ワーク)
6		・個人ワークで情報分析から介護計画立案
7		・グループ内共有・評価。　・再検討・報告・提出
8	介護過程展開に向けて	評価についての理解・実習使用書式の説明
9	第3期実習振り返り	・第3期実習で作成した介護計画書の振り返り。自分の特徴の理解を深める
10	作成事例検討3	・情報分析から介護計画立案
11		・グループ内共有・評価
12		・再検討・報告・提出
13	作成事例検討4	・情報分析から介護計画立案
14		・グループ内共有・評価

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15		・再検討・報告・提出
16	作成事例検討5	・情報分析から介護計画立案
17		・グループ内共有・評価
18		・再検討・報告・提出
19	振り返り	第4期実習における介護計画振り返り、自分の特徴の理解を深める
20	介護過程の展開の見直し	・再立案（見直し）
21		・再立案、グループで共有
22		・意見交換・報告
23		・発表
24	第3期、第4期実習振り返り	・介護計画の再立案を別グループと共有
25		・グループ内評価、再立案
26		・報告・提出
27	国試対策	国試対策（過去問・解説）
28		
29	まとめ	振り返り（介護過程とは・・・レポート作成）
30	試験	筆記試験

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	介護総合演習Ⅰ（日本語表現）		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	介護実習を行ううえでの介護福祉士としての心構え、社会人としてのマナーを理解し、利用者の個別性を尊重した介護実践に発展できる能力を養う。知識と技術の統合を目指す。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	尊厳や、自立、権利や価値、生活状況を持っている利用者。学内での学びを統合し、実際の場面に適応できる柔軟性や、応用力、判断力が求められると同時に、介護場面で遭遇した課題を解決するための主体的な行動力を身につけられるようにする。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	1単位	様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合する必要性を理解し、介護福祉士の在り方について理解できるようになる。	
授業担当者	隈本　つばさ 加藤　浩和		
実務家教員	○	老人保健施設、特別養護老人ホーム等における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	中央法規　最新　介護福祉士養成講座　10　介護総合演習・介護実習第2版		
評価方法	・出席率・授業態度・提出物・実習評価		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	介護実習Ⅰについて。グループワーク「介護実習Ⅰで習得したいもの」
2	実習準備	個人票・目標・事前学習、レポート作成
3		
4		
5		実習日誌の説明
6	事前学習	コミュニケーション技術について
7	振返り	振返りシートを用いてグループワーク
8	実習準備	個人票・目標・事前学習、レポート作成
9		
10		
11		実習日誌の説明
12	事前学習	生活支援技術の実践について
13	振返り	振返りシートを用いてグループワーク
14	まとめ	介護福祉士のあり方について。グループワーク。発表。
15		

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	介護総合演習Ⅱ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質や課題把握等、総合的対応能力を習得できる。客観的な事実の必要性を理解し、適切な記録方法を習得する。介護実践の科学的探究を目指す。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	実習との組み合わせにより、個別の到達目標を見据えた総合的な学習。
授業回数	45回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	3単位	技術・知識を介護実践に応用でき、自立支援の観点から介護過程の展開が図れる。それぞれのテーマに沿った研究的な考察ができる。介護実習Ⅰを振り返り、自己の課題や学習内容を言語化・明確化できる。ケアスタディ発表会に向けた業者・介護福祉学科との打ち合わせ等の共同作業を、学生主体で行い、介護分野の学習の集大成とする。
授業担当者	隈本　つばさ 石田　麗 山田　英介	
実務家教員	○	老人保健施設、特別養護老人ホーム、障害者支援施設等における介護福祉士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	随時プリント配布	
評価方法		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	実習概要	実習Ⅱ　目的・意義　、第3期実習先の決定
2	書類準備	第3期実習準備（個人票、評価表、出席票）
3	書類準備	第3期実習準備（個人票、評価表、出席票）
4	振り返り	実習Ⅰでの経験を踏まえた専門職としての役割・職業倫理、対象者様を具体的に挙げる
5	振り返り	実習Ⅰでの経験を踏まえた専門職としての役割・職業倫理、対象者様を具体的に挙げる
6	記録	実習Ⅱに向けての心構え、実習の進め方（記録用紙の配布）
7	記録	実習Ⅱに向けての心構え、実習の進め方（記録用紙の配布）
8	記録	記録の必要性・重要性、プロセスレコードの再学習
9	記録	記録の必要性・重要性、プロセスレコードの再学習
10	記録	観察の視点、実習記録の書き方、実習中の留意点
11	壮行会	第3期実習に向けての説明会（総合福祉学科と合同授業）、壮行会
12	実習概要	第４期実習先の決定、実習準備（個人票、評価表、出席票）
13	個別面談	第３実習での評価に対する個別面談
14	振り返り	第３期実習の振り返り、報告のまとめ
15	振り返り	第3期実習の報告会

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	振り返り	介護過程の意義の再確認、3期実習で困ったことなどグループワーク
17	振り返り	第3実習を基に、自身の行ったケースについての振り返り
18	振り返り	第3実習を基に、自身の行ったケースについての振り返り
19	記録	第4期実習に向けての心構え、実習の進め方（記録用紙の配布）
20	記録	第4期実習での対象者様についての事前学習
21	記録	第4期実習での対象者様についての事前学習
22	報告会	第4期実習の振り返り、まとめと報告会
23	報告会	第4期実習の振り返り、まとめと報告会
24	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表会に向け、クラス内での役割分担を話し合う。研究課題を確定と指導教員の決定、必要文献などの準備を開始する。
25	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備（ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う）
26	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備（ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う）
27	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備（ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う）
28	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備（ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う）
29	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
30	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
31	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
32	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
33	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
34	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
35	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
36	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
37	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
38	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
39	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成
40	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
41	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
42	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
43	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
44	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
45	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	介護実習Ⅰ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	さまざまな生活の場における個人の生活を理解したうえで、個別ケアを考え、コミュニケ―ションの実施、他職種協働を通じ介護福祉士としての役割について理解する。地域における生活支援の実践を通して学ぶ。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	1. 多様な介護現場による見学・観察実習をする。 2. 基本的なコミュニケーション、介護技術を見学・補助・実践する。	
授業回数	15日間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	3単位	1. 各施設の理念・特徴、機能、役割を知る 2. 利用者の生活の実際を理解する 3. 基本的なコミュニケーション技法を理解する 4. 基本的な介護技術を理解する 5. 介護現場における職種と役割を理解する	
授業担当者	隈本　つばさ 石田　麗 山田　英介 加藤　浩和		
実務家教員	○	老人保健施設、障害者支援施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム等における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献			
評価方法	実習評価表にもとに事前事後指導・巡回指導、実習先の評価など総合的に判断する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
	介護現場実習	1. 第1期実習（9月）下記の施設1日1～2ヶ所の組み合わせで5日間実習をする 実習施設の理念、特色、業務を理解する 介護場面におけるコミュニケーション、介護技術を見学・補助する 利用者とコミュニケーションを図る 実習先 (1) 介護老人福祉施設・介護老人福祉施設（ユニット） (2) 介護老人保健施設 (3) ケアハウス (5) サテライト型居住施設 (6) 認知症対応型共同生活介護 (7) 障害者支援施設 (8) 救護施設 2. 第2期実習（1月）下記の施設1ヶ所にて10日間の施設実習をする 実習施設の理念、特色、業務を理解する 利用者を支える職種と連携場面に見学・参加する 介護場面におけるコミュニケーション、介護技術を見学・補助・実践と段階を経て行う 利用者とコミュニケーションを深め、利用者に応じた介護を展開する 実習先 (1)介護老人福祉施設 (2)介護老人保健施設 (3)障害者支援施設 (4)救護施設

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	介護実習Ⅱ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	介護過程の実践的展開を行うために個々の生活レベルや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を学習とする。自己の技術・知識・態度の振り返り、人間と介護の本質を認識・追求しながらチームの一員として介護を展開する能力を養う。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	基本的なコミュニケーション、介護技術を補助・実践する。利用者の生活習慣や価値観を把握し、介護計画の立案・実践・評価を学ぶ。夜勤・レクリエーションを実施する。多職種と連携して介護を展開する。
授業回数	45日間	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	9単位	個人理解のもと介護計画の立案・実施・評価ができる。基本的なコミュニケーション技法を展開できる。基本的な介護技術を展開できる。介護福祉士としての介護観を確立できる。
授業担当者	隈本　つばさ 石田　麗 山田　英介 加藤　浩和	
実務家教員	○	老人保健施設、障害者支援施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム等における介護福祉士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	全教科テキスト	
評価方法	実習態度、介護技術、資質・適性	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
第3期実習	利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を学習とする。	第3期実習（6月）下記の施設1ヶ所にて24日間の施設実習をする。 実習施設の理念、特色、業務を理解する。 介護現場におけるコミュニケーション、介護技術を利用者に応じ補助・実践行う。 担当利用者との関係づくりを図り、介護過程を展開する。 レクリエーションの実施をする。 （1）介護老人福祉施設 （2）介護老人保健施設 （3）障害者自立支援施設 （4）救護施設
第4期実習	利用者の課題を明確にするため他職種との連携のもと、具体的な介護サービスの提供を総合的視野で考え、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、評価する過程を養う。	第4期実習（10月）下記の施設1ヶ所にて20日間の施設実習をする。 実習施設の理念、特色、業務を理解する。 介護現場におけるコミュニケーション、介護技術を利用者に応じ補助・実践行う。 担当利用者との関係づくりを図り、介護過程を展開する。 レクリエーションの実施をする。 （1）介護老人福祉施設 （2）介護老人保健施設 （3）障害者自立支援施設 （4）救護施設

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	発達と老化の理解Ⅰ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	人の成長と発達や老年期における発達課題 老年期にある人について身体的･心理的･社会的側面を含め、多面的に理解できるような内容
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	① 人の成長と発達や老年期における発達課題を理解できる ② 老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する
授業担当者	本多祥子	
実務家教員	○	総合病院における看護師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	[使用テキスト･参考文献] 最新　介護福祉全書（メジカルフレンド社） 最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」第2版	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	人間の成長と発達①	人間の成長と発達の基礎的理解。
2	人間の成長と発達②	ライフサイクルとファミリーサイクル
3	人間の成長と発達③	ライフサイクルと発達課題
4	人間の成長と発達④	乳幼児期のこころとからだ
5	人間の成長と発達⑤	児童期のこころとからだ
6	人間の成長と発達⑥	青年期のこころとからだ
7	人間の成長と発達⑦	成人期のこころとからだ
8	社会からみた老年期①	老化に伴うこころとからだの変化と生活
9	社会からみた老年期②	今日の老年期の社会的定義
10	社会からみた老年期③	今日の老年観
11	ライフサイクルのなかの老年期①	ライフサイクルのなかの老年期とはどのような時期か
12	ライフサイクルのなかの老年期②	いまの高齢者が生きてきた時代とは
13	老年期の発達課題①	人格と尊厳、老いの価値
14	老年期の発達課題②	喪失体験
15	老年期の発達課題③	セクシュアリティについて

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	発達と老化の理解Ⅱ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	老年期にある人について身体的・心理的・社会的側面を含め、多面的に理解できるような内容 「老い」や「死」を肯定的にみることができるようにとの意図の一環として、老年観について考える
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	①「老い」や「死」を肯定的にみることができ、老年観について考えることができる ②老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する
授業担当者	本多祥子	
実務家教員	○	総合病院における看護師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	最新　介護福祉士全書（メジカルフレンド社）　第9巻　発達と老化の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	心身機能の老化と日常生活への影響①	心身機能の老化の特徴
2	心身機能の老化と日常生活への影響②	身体的機能の老化
3	心身機能の老化と日常生活への影響③	知的・認知機能の老化
4	心身機能の老化と日常生活への影響④	精神的機能の老化
5	心身機能の老化と日常生活への影響⑤	心身機能の老化の日常生活への影響
6	心身機能の老化と日常生活への影響⑥	心身機能の老化を遅らせるのに　何が効果的か
7	高齢者に多い症状・病気①	高齢者に多い症状と日常生活での留意点
8	高齢者に多い症状・病気②	高齢者に多い病気と日常生活での留意点
9	高齢者に多い症状・病気③	病気をもつ高齢者をみるときの介護福祉士と保健医療職との連携
10	高齢者の心理①	老化を受け止める高齢者の気持ち
11	高齢者の心理②	社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち
12	高齢者の心理③	障害を受け止める高齢者の気持ち
13	高齢者の心理④	友人との別れを受け止める高齢者の気持ち
14	高齢者の心理⑤	経済的不安を抱える高齢者の気持ち
15	高齢者の心理⑥	その他

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	認知症の理解		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	認知症の医学的側面、種類、特徴、介護方法などの認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人の理解に結びつける。認知症を取り巻く環境、チームアプローチ、家族支援などの視点を養う。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	認知症の定義、認知症ケアの歴史、視点の変遷、認知症症状と原因疾患、社会的・心理的環境、生活に与える影響や環境の及ぼす力、認知症の人を支えるには、地域資源、多職種協働、介護家族ケア	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	4単位	① なぜ認知症の人について学ぶ必要があるのか理解できる ② 医学面、心理面での認知症の人の理解を深めることができる ③ 本人本位の視点の重要性が理解できる	
授業担当者	三嶋秀子 加藤浩和		
実務家教員	○	（三嶋）病院における看護師としての実務経験 （加藤）特別養護老人ホーム、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座（中央法規） 第１２巻　認知症の理解　第2版		
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	認知症を取り巻く状況	認知症とは何か　認知症のある高齢者の現状と今後　テキストP2～
2	認知症を取り巻く状況	認知症の人を取り巻く状況　これまで―今―これから　テキストP110～
3	認知症を取り巻く状況	認知症の人を取り巻く状況　これまで―今―これから
4	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点　テキストP121～
5	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点
6	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症の中核症状の理解　テキストP34～
7	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症の中核症状の理解
8	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　生活障害・BPSDの理解　テキストP42～
9	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　生活障害・BPSDの理解
10	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の診断と治療　テキストP65～
11	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の原因疾患と症状・生活障害　テキストP78～
12	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症ケアの実際　パーソン・センタード・ケア　テキストP154～
13	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症ケアの実際　パーソン・センタード・ケア　テキストP154～
14	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症ケアの実際　認知症の人とのコミュニケーション　テキストP191～

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	認知症の人の体験の理解	認知症ケアの実際　認知症の人とのコミュニケーション
16	認知症の人の生活の理解	認知症ケアの実際　認知症の人へのケア　テキストP197～
17	認知症の人の生活の理解	認知症ケアの実際　認知症の人へのさまざまなアプローチ　テキストP225～
18	認知症の人に対する介護	認知症ケアの実際　認知症の人へのさまざまなアプローチ
19	認知症の人の生活の理解	認知症の人へのかかわりの基本
20	認知症の人の生活の理解	若年性認知症の人の生活の理解と支援
21	介護者支援	家族への支援　　テキストP264～
22	介護者支援	その他の支援
23	認知症の人の地域生活支援	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア　連携と協働　テキストP300～
24	認知症の人の地域生活支援	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア
25	応用授業	事例検討
26	応用授業	事例検討
27	応用授業	事例検討
28	応用授業	事例検討
29	応用授業	事例検討
30	試験	

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	障害の理解Ⅰ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	① 障害のある人の基礎的理解ができる。 ② 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解ができる。 ③ 障害のある人の体験を理解し、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援ができる。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	身体障害、知的障害、視覚障害、聴覚障害、精神障害等の障害形態別に伴う障害の理解と対処する
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・障害の医学的側面を理解することで、基本的知識および(専門)用語が身につけられている。 ・障害の特性を理解することで、障害にあった対処ができる。 ・家族、地域、保健医療従事者との情報交換やチームアプローチの方法を知ることができる。
授業担当者	三嶋秀子	
実務家教員	○	病院における看護師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 13障害の理解　第2版	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	自己紹介　障害とは何か　障害の概念
2	イメージする	老人・障害者の心理(VTR)
3	法的定義	わが国における障害者の法的定義
4	基本理念	障害者福祉の基本理念
5	視覚障害	視覚障害のある人の生活
6	視覚障害	視覚障害のある人の生活
7	聴覚・言語障害	聴覚・言語障害のある人の生活
8	聴覚・言語障害	聴覚・言語障害のある人の生活
9	肢体不自由	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活
10	肢体不自由	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活
11	内部障害	内部障害のある人の生活
12	内部障害	内部障害のある人の生活
13	内部障害	内部障害のある人の生活
14	内部障害	内部障害のある人の生活
15	まとめ	振り返り

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	障害の理解Ⅱ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	① 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 ② 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 ③ 連携と協働を学ぶ。 ④ 家族への支援を学ぶ。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	様々な障害形態別に伴う障害の理解と、対処するための心理や身体機能の知識を習得するため、参考図書を使用した講義やビデオ（画像）による学習を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	・障害の医学的側面を理解することで、基本的知識および（専門）用語が身につけられている。 ・障害の特性を理解することで、障害にあった対処ができる。 ・家族、地域、保健医療従事者との情報交換やチームアプローチの方法を知ることができる。 ・国家試験に合格するレベルの知識を習得する。	
授業担当者	三嶋秀子		
実務家教員	○	病院における看護師としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 13障害の理解		
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	高次機能障害	高次機能障害のある人の生活
2	発達障害	発達障害のある人の生活
3	重症心身障害	重症心身障害のある人の生活
4	内部障害	内部障害のある人の生活（心臓機能）
5	内部障害	内部障害のある人の生活（腎臓機能）
6	内部障害	内部障害のある人の生活（呼吸機能）
7	内部障害	内部障害のある人の生活（膀胱・直腸機能）
8	内部障害	内部障害のある人の生活（HIV）
9	内部障害	内部障害のある人の生活（肝臓機能）
10	難病	難病のある人の生活
11	基本的視点	障害のある人に対する介護の基本的視点
12	基本的視点	障害のある人に対する介護の基本的視点
13	家族への支援	家族への支援
14	連携と協働	連携と協働
15	まとめ	振り返り

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	からだのしくみ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	・介護を行う上で心身機能と身体構造は、当然必要で理解しておかなければならない知識である。利用者の病態を正しく理解し、対応を知ることによって、より充実した介護サービスを提供できるよう知識を深める。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・介護の実践に沿ったこころとからだのしくみを理解する。また、ビデオ等の教材を使用し、視覚的に理解できるようになる。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・医療、福祉、介護現場で必要な専門（医学）用語が身についている。 ・人体の構造・働きを理解したうえで、根拠に基づくケアができる。
授業担当者	三嶋秀子	
実務家教員	○	病院における看護師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	最新　介護福祉士講座11「こころとからだのしくみ」第2版（中央法規出版）	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	生きているしくみの理解（おさらい）
2	医学の復習	生きているしくみの理解（おさらい）
3	医学の復習	生きているしくみの理解（おさらい）
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	基礎知識（身じたく行為の生理的意味など）
5	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす整容行動の影響（機能の低下・障害の原因およびその影響）
6	移動に関連したこころとからだのしくみ	基礎知識（移動行為の生理的意味、重心、バランス、良肢位など）
7	移動に関連したこころとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす移動の影響・生活場面おけるからだの変化の気づき
8	食事に関連したこころとからだのしくみ	基礎知識（からだをつくる栄養素、1日に必要な水分量・栄養量など）
9	食事に関連したこころとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす食事の影響・生活場面おけるからだの変化の気づき
10	排泄に関連したこころとからだのしくみ	基礎知識（清潔保持の生理的意味、便・尿の性状など）
11	排泄に関連したこころとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす排泄の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
12	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	基礎知識 ・機能の低下・障害の原因およびその影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
13	死にゆく人のこころとからだのしくみ	「死」の捉え方 ・終末期から危篤、死亡時のからだの理解 ・「死」に対する心の理解　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ
14	国家試験対策	国家試験対策
15	まとめ	振り返り

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	医学一般		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	介護を行う上で心身機能と身体構造は、当然理解しておかなければならない知識である。 利用者の病態を正しく理解し、対応を知ることによって、より充実した介護サービスを提供できるよう知識を深める。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	介護の実践に沿ったこころとからだのしくみを理解する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	医療、福祉、介護現場で必要な専門（医学）用語が身についている。 人体の構造・働きを理解したうえで、根拠に基づくケアができる。	
授業担当者	三嶋秀子		
実務家教員	○	病院における看護師としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	改訂版　介護のための医学の基礎　（公益社団法人介護労働安定センター）		
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	アンケート　VTR
2	人体の構造と働き	人体の区分　解剖学用語
3	人体の構造と働き	調節系　脳と脊髄
4	人体の構造と働き	調節系　末梢神経系と自律神経系
5	人体の構造と働き	呼吸器系
6	人体の構造と働き	循環器系
7	人体の構造と働き	消化器系
8	人体の構造と働き	代謝系
9	人体の構造と働き	排泄系
10	人体の構造と働き	骨格系　筋系
11	人体の構造と働き	感覚器系
12	人体の構造と働き	生殖器系
13	人体の構造と働き	免疫系
14	主な疾患の概要	呼吸器疾患・循環器疾患　腎、泌尿器疾患・消化器疾患　等
15	まとめ	振り返り

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	こころのしくみ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	介護実践に必要な知識という観点から、こころのしくみについての知識を養う。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	介護の実践に沿ったこころとからだのしくみを理解する。また、ビデオ等の教材を使用し、視覚的に理解できるようになる。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	①こころのしくみの基礎的理解を習得する。 ②介護技術の根拠となる人の機能やこころのしくみを理解し、それに伴う心理的側面への配慮について理解する。	
授業担当者	三嶋秀子		
実務家教員	○	病院(精神科)における精神科看護師長としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	最新　介護福祉士講座11「こころとからだのしくみ」第2版（中央法規出版）		
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	「こころと脳のつながり」・脳のしくみの基礎
2	こころを働かせるしくみの理解	感覚・知覚・認知のしくみ
3	こころを働かせるしくみの理解	学習と動機づけ
4	こころを働かせるしくみの理解	欲求と感情のしくみ
5	こころを働かせるしくみの理解	自分を守るこころのしくみ
6	こころを働かせるしくみの理解	こころの発達と自己概念
7	心の傷を受けるとどうなるか	ストレス関連障害
8	心の傷を受けるとどうなるか	PTSDを深堀する
9	心の傷を受けるとどうなるか	適応障害
10	死にゆく人のこころのしくみ	死に対する恐怖と不安　死を受容する段階　人生の最終段階のケアに関連したこころのしくみ
11	死にゆく人のこころのしくみ	家族が死を受容する段階　家族支援　ホスピス
12	メンタルヘルス	健康な人格について
13	メンタルヘルス	統合失調症について
14	メンタルヘルス	こころの治療と予防について
15	まとめ	振り返り

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	心理学	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	心理学の理論を理解し、心理的支援力を高める。 更に、支援における支援者と被支援者の相互作用を理解し、福祉における今日的問題への対応力をつける。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	心理学の発展経過、発達と学習の関係、アセスメント手法を学び、自己理解を深め、福祉的支援者として対応について深める。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・心理学の理論、特に心の発達について理解する。 ・アセスメント手法、福祉現場での活用方法を理解する。 ・福祉における今日的問題を理解し、対応方法を身に付ける。
授業担当者	土屋　廣人	
実務家教員	○	児童相談所における臨床心理士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	社会福祉学習双書　第11巻　心理学　全国社会福祉協議会	
評価方法	授業終了後、「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	心理学を学ぶ理由
2	自己理解Ⅰ	自己理解と他者理解
3	心理学歴史	現代心理学の潮流
4	脳について①	脳の構造
5	脳について②	知覚と認知
6	脳について③	発達と学習
7	脳について④	知能とは
8	発達課題とは	愛着について
9	人と環境	アセスメントについて
10	観察について	行動観察の手法
11	自己理解Ⅱ	性格検査
12	ケアリングとは	ケアリングとカウンセリングについて
13	事例問題①	今日的問題①
14	事例問題②	今日的問題②
15	振り返り・まとめ	授業の振返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	医療的ケアⅠ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	福祉領域の専門家である介護福祉士が、医療分野の理念や倫理を理解し、喀痰吸引・経管栄養についての医療的ケア実施の基礎的知識を習得する。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	医療的ケア、安全な療養生活(救急蘇生法)、清潔保持と感染予防、健康状態の把握、喀痰吸引概論、喀痰吸引実施手順解説、経管栄養概論、経管栄養実施手順解説。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	① 医療的ケアとはどういうものか、また介護福祉士が医療的ケアを行うようになった背景が理解できる。 ② 喀痰吸引・経管栄養に関する基礎的知識、実施手順と留意点について理解することができる。
授業担当者	三嶋秀子・小林涼	
実務家教員	○	病院における看護師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座　医療的ケア第2版(中央法規)	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	医療的ケア	医療的ケアとは。医行為について、喀痰吸引等制度
2	医療的ケア	医療的ケアと喀痰吸引等の背景、その他の制度
3	安全な療養生活	ヒヤリハット、アクシデント
4	清潔保持と感染予防	感染予防・職員の感染予防・療養環境の清潔、消毒法
5	清潔保持と感染予防	滅菌と消毒
6	健康状態の把握	身体・精神の健康　健康状態を知る項目　バイタルサイン
7	健康状態の把握	バイタルサイン、急変状態について
8	安全な療養生活	救急蘇生
9	安全な療養生活	救急蘇生
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	いつもと違う呼吸状態
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引とは
13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引
14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	子どもの吸引について、吸引を受ける利用者や家族の理解

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸器系の感染と予防
16	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	急変・事故発生時の対応と事前対策
18	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化器系のしくみとはたらき
19	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化・吸収とよくある消化器の症状
20	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	注入する内容に関する知識
21	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養について
22	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養を受ける利用者や家族の理解
23	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
24	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	急変・事故発生時の対応と事前対策
25	実施手順概要	手順の解説
26	実施手順概要	手順の解説
27	実施手順概要	手順の解説
28	実施手順概要	手順の解説
29	実施手順概要	手順の解説
30	実施手順概要	手順の解説

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	医療的ケアⅡ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生の実施手順、留意点を理解し、安心・安全・安楽に基づいた技術を身につける。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	喀痰吸引実施手順解説、経管栄養実施手順解説
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	①喀痰吸引・経管栄養についての概要、実施手順を理解することができる。 ②喀痰吸引・経管栄養についての正しい実施手順を理解し、施行することができる。
授業担当者	三嶋秀子・小林涼	
実務家教員	○	病院における看護師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座　別巻　医療的ケア（中央法規）	
評価方法	授業態度、基本研修・演習の評価票にて評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	吸引の技術と留意点
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	吸引の技術と留意点
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引にともなうケア・報告および記録
5	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
6	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点
7	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点
8	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養に必要なケア・報告および記録
9	演習	演習の手順・説明
10	演習	喀痰吸引
11	演習	
12	演習	
13	演習	経管栄養
14	演習	
15	演習	

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	児童福祉論	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	児童福祉の概念・理念を理解して、支援力を高める。さらに、支援策等を理解して、現代の児童問題への対応力を身につける。
学年	2年次	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	児童福祉の変遷、支援機関・支援策、研究方法を理解し、児童福祉の今日的問題の対応について学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	〇児童福祉の概念・理念を学び、権利の主体者としての児童支援を理解する。 〇研究方法、支援制度を学び、今日的課題を理解するとともに、対応方法を身につける。
授業担当者	土屋　廣人	
実務家教員	〇	静岡県庁での児童福祉分野の施設・機関における実務経験
使用テキスト 参考文献	よく分かる子ども家庭福祉　山縣文治編著　（ミネルヴァ書房）	
評価方法	授業終了後、「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	児童福祉とはどんなこと、児童とはなど、授業の全体像を知る。
2	児童を取り巻く環境	研究方法の一つであるKJ法を活用し、児童を取り巻く様々な環境についての理解を深める。
3	ライフサイクル	家族のライフサイクルから、児童福祉の重要性を理解する。
4	児童福祉法と成立以前と以後の変化	ウエルフェアからウエルビーイングへの変化と子ども家庭福祉とは何かを理解する。
5	子どもの権利保障	様々な子育て支援制度から子どもの権利保障の理解を深める。
6	戦前の児童福祉	戦前の児童福祉の状況を理解し、今日との比較をしていく。
7	児童福祉法の誕生経過　2010年の改正後	児童福祉法について理解を深める。
8	児童福祉法と関連法律	虐待等児童福祉法と関連する法律とその意義について学ぶ。
9	さまざまな福祉行政機関・福祉機関	児童福祉関連機関の種類と役割、及び子ども家庭福祉サービスと支える人について理解し、加えて高齢者福祉等との関係性についても理解を深める。
10	事例検討	虐待関係の事例検討用アセスメント表を利用した事例検討により、事例検討の意義を学ぶ。
11	子どもを取り巻く環境　いじめ・自殺	いじめ、自殺の防止の重要性と施策について理解する。関連機関を理解する。
12	親子関係と虐待　共依存	親子関係・養育態度を通して、虐待・共依存などの理解を深める。
13	体罰	親の懲戒権、無くならない学校での体罰、様々なハラスメントについて理解を深める。
14	貧困対策、障害児施策	貧困、障害児などへの支援策等を学び、子どもの権利・主体性の尊重について理解を深める。
15	まとめ	授業の到達目標に沿って、理解が深まった点、浅かった点を見直す。

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	地域福祉論	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	「地域」とはすべての人が生活するべき場所であり、ジェネラリストソーシャルワークを展開する基盤でもある。生活の質を向上させるにあたり、病院や施設ではなく、慣れ親しんだ自宅や地域で生活をし、自分らしさを考えるということに焦点をあて、学びとしていくことを目標とする。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	地域福祉の基礎とともに様々なアクターについて紹介し、包括的な支援について検討する。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	ミクロ、メゾ、マクロとつながる個別支援から地域支援において、どのようなアクターが主体となって、どのような支援活動を行っていくのかを習得することができるとともに、地域福祉にかかる政策、制度等を習得することができる。
授業担当者	塚本　鶴樹	
実務家教員	○	JICAの派遣による各国の地域開発プログラムにおける実務経験
使用テキスト 参考文献	『新版　地域福祉論』 ミネルヴァ書房	
評価方法	最終試験をもとに、出席率、授業態度およびグループワーク等の成果物によって総合的に判断する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 地域福祉のアクター	地域における様々な活動主体
2		
3	現在の地域社会、 地域福祉	現代社会の課題と住民・地域福祉
4		
5	地域福祉とは	地域福祉の概要、法的な位置づけ
6		
7		
8	地域生活支援	地域を基盤としたソーシャルワーク
9		
10	ミクロの地域福祉援助	個別支援のネットワーク化
11		
12	メゾの地域福祉援助	個別課題の一般化とソーシャルアクション
13		
14	マクロの地域福祉援助	地域資源のネットワーク化、計画化、制度化
15		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	地域福祉力の向上	ニーズの早期発見
17		
18	当事者組織	当事者組織の形態、機能。事例検討
19	ボランティア	地域福祉のアクターとしてのボランティア。事例検討
20	自治会・町内会・地区社会福祉協議会	自治会・町内会の機能、課題。事例検討
21	民生委員	民生委員の地域における活動。事例検討
22	社会福祉協議会	社会福祉協議会の性格、事業
23		
24	市町村	地域福祉における市町村議会や行政と住民の関係。事例検討
25	地域包括支援センター	地域包括支援センターの機能、業務。事例検討
26	NPO	地域福祉におけるNPOの役割。事例検討
27	社会福祉法人	地域福祉のアクターとしての社会福祉法人。事例検討
28	社会的企業	社会的企業の機能、役割。事例検討
29	地域包括ケアの今後	包括的支援とは
30	まとめ	授業全体の振り返りと評価方法の確認

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	法 学	
年度	令和 6 年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	法学の基本的知識を学び、社会福祉専門職として法制度を活用できる基礎を身に付ける。 具体的には、以下の3点を中心に学ぶ。 1.「社会規範としての法」の意義を理解する。 2.「憲法」、「民法」及び「行政法」 のエッセンスを理解する。 3.「介護事故」、「リスクマネジメント」 について学ぶ。
学年	2 年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後 期	テキストの講義を主体とするが、法は実際の生活・仕事に密着した領域なので、新聞・判例集などから事例を紹介する。
授業回数	15 回	
授業形態	講 義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2 単位	福祉人材に必要な「法的センス」を身に付ける。
授業担当者	橋野　幸男	
実務家教員	○	政府系金融機関において法学士の知識を活用し、契約・融資審査・債権管理の実務を担当
使用テキスト 参考文献	山口光治・編『権利擁護と成年後見制度』 第2～5章、配布プリント	
評価方法	出席率・授業態度 及び 試験結果 を総合して評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内　容
1	「法」入門	・法の概念　・法の分類　・法文の構造 と 法の適用　・法令用語　・リーガル・マインド
2	相談援助活動に登場する法律問題	・福祉サービスの利用と契約　・消費者被害と消費者保護法制　・自己破産　・借家保証　・行政行為と行政争訟
3	「憲法」① … 基本原理	・憲法とは　・憲法の構造　・日本国憲法の基本原理
4	同 ② … 人権規定	・基本的人権の体系　・人権享有主体性　・自由権　・社会権　・包括的人権 と 新しい人権
5	同 ③ … 統治規定	・権力分立の原則　・立法ー国会　・行政ー内閣　・司法ー裁判所　・地方自治
6	「民法」① … 近代法の原則	・民法の世界観　・近代法の基本原則 と その修正:「所有権の絶対性」、「契約自由の原則〔個人意思自治の原則〕」、「過失責任の原則」
7	同 ② …「債権」、「契約」・「不法行為」入門	・責任の分化　・民法の二大分野:「契約」と「不法行為」　・「債権」　・債権の対内的効力　・契約の種類
8	同 ③ … 自己決定と「代理」	・「任意代理」ー自己決定を拡大するシステム　・「法定代理」ー自己決定を補完するシステム
9	同 ④ … 契約 と「契約責任」、「消費者保護」	・契約の成立 と 効果　・「個人意思自治の原則」のチェック: 意思無能力、制限行為能力、意思と表示の不一致、瑕疵ある意思表示　・消費者保護法制:「消費者契約法」、「特定商取引法」
10	同 ⑤ …「一般不法行為」、「特殊不法行為」	・不法行為の成立要件　・過失責任・中間責任・無過失責任　・特殊不法行為: 使用者責任、法定監督義務者責任、運行供用者責任
11	同 ⑥ …「介護事故」の事例	・契約責任ー債務不履行責任〔安全配慮義務違反〕　・不法行為責任ー使用者責任、監督義務者責任・代理監督義務者責任　・裁判例: 横浜地裁 H.17.3.22 、大阪高裁 H.18.8.29
12	同 ⑦ …「親族法」、「相続法」	・親族関係　・夫婦　・親子　・扶養　・法定相続人　・相続分　遺言
13	「行政法」① … 行政行為の効力	・「法律による行政」　・行政作用　・行政行為の効力: 公定力、不可争力、不可変更力、自力執行力
14	同 ② … 行政争訟	・行政不服審査法　・行政事件訴訟法　・国家賠償法　・情報公開制度　・個人情報保護法
15	社会福祉士国家試験の出題例	・過去5年分の出題

経済学		2024/4/1
科目名	経済学	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	現代社会の経済の基本的構造を学ぶとともに、実際の経済の流れを示す教材を提供しながら、日々の生活と経済の関連を具体的にイメージできるようにする。
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	講義を中心とするが、場合によってはコンピュータを使い、インターネットを通じて経済の動向をつかむ知識を紹介する。
授業回数	１５回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	経済学理論を理解し、社会福祉との関連を考察する。
授業担当者	中村　徹	
実務家教員	○	経済学部で学んだ学識と企業人としての実務経験
使用テキスト 参考文献	有斐閣双書　新経済学の基礎靖・芦田文夫・坂本一夫編斐閣出版	
評価方法	受験資格：出席率80％以上　定期試験：60点以上合格	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とは何かについて学ぶ。
2	現代社会の経済を分析する	現代社会の経済を分析する。
3	アダム・スミスと「諸国民の富」	「諸国民の富」について学ぶ。
4	日本型アダム・スミス「石田梅岩」と日本の経済の夜明け	日本型アダム・スミス「石田梅岩」と日本の経済の夜明けについて学ぶ。
5	マルクス主義経済学と資本主義の発達	マルクス主義経済学と資本主義の発達について学ぶ。
6	マルクスの価値学説	マルクスの価値学説について学ぶ。
7	ケインズ主義経済学	ケインズ主義経済学について学ぶ。
8		
9	マーシャルプランと福祉施策	マーシャルプランと福祉施策について学ぶ。
10	経済学的にみた現代経済	経済学的にみた現代経済について学ぶ。
11	経済動向と社会福祉	経済動向と社会福祉について学ぶ。
12	情報と経済	情報と経済について学ぶ。
13	価値と消費	価値と消費について学ぶ。
14	流通経済	流通経済について学ぶ。
15	低成長経済と国際的流れ	低成長経済と国際的流れについて学ぶ。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	社会福祉援助技術演習		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	近年、社会福祉が対応する解決すべき生活課題は、ますます複雑かつ深刻になってきている。この科目は、演習を中心として援助技術を身につけるとともに3年次履修科目「相談援助演習」の基礎となるべき科目でもある。社会福祉において必要とされる多くの援助技術を学び、事例を通したロールプレイ等で検討するとともに、ソーシャルワークの理論と実践を結んでいきます。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	社会福祉専門職として必要な基礎的な援助技術の方法に関する全体像を具体的に学ぶ	
授業回数	15回		
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	コミュニケーション、面接、記録等の基本的な相談援助の技術を身につけることができるとともに、相談援助の価値や倫理についても身につけることを目標とする。	
授業担当者	井川　真世		
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	田中英樹ほか編『ソーシャルワーク演習のための88事例』 中央法規 白澤政和ほか編『社会福祉士相談援助演習』 みらい 須藤昌寛著『対人援助職のためのコミュニケーションと面接技術』 中央法規		
評価方法	・出席率　・授業態度　・グループワークへの参加態度　・提出物（課題）評価　・試験（小テストを含む）		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 社会福祉援助技術	社会福祉援助技術（相談援助、ソーシャルワーク）とは何かについて
2	目指す社会福祉士像①	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割とは
3	目指す社会福祉士像②	「地域を基盤としたソーシャルワーク」の展開
4	自己理解と他者理解	自己覚知、セルフ・イメージ、価値観の多様性
5	プレゼンテーション	ソーシャルワーカーとしての基本的な姿勢
6	面接技術の基本	面接の環境・雰囲気作り
7	対人援助職に 求められる7つの コミュニケーション力	①傾聴力　②共感力　③質問力　④説明力
8		⑤非言語力　⑥読み取り力　⑦要約力
9		事例を通したコミュニケーション実践
10	記録・マッピング	記録の意義と目的、内容、注意点　ジェノグラムとエコマップ
11	評価	評価の意義と目的、方法
12	価値と倫理	ソーシャルワークの価値、倫理上のジレンマ
13	総合事例研究①	複雑な困難を抱えた事例研究　グループワーク
14	総合事例研究②	複雑な困難を抱えた事例研究　グループワーク
15	総合事例研究③	複雑な困難を抱えた事例研究　グループワーク

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	福祉事務所運営論		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	日本の社会福祉制度の公的な地域の窓口である福祉事務所の機能・役割を中心として社会福祉を取り巻く環境や今後における福祉事務所のあり方を学ぶ。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	社会福祉における福祉事務所の業務や多機関連携の重要性を理解する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	社会福祉主事等の実際業務に対応できるような能力を培う。	
授業担当者	石川 順		
実務家教員	○	焼津市役所における福祉事務所での実務経験	
使用テキスト 参考文献	ミネルヴァ書房「福祉事務所運営論第4版」宇山勝儀・船水浩行編著		
評価方法	授業終了後、「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス 生活と福祉	現代社会を統計的に捉えるとともに福祉の概念を理解する。
2	現代社会を取り巻く社会の現状	社会福祉を取り巻く社会経済環境や社会が抱える諸問題を理解する。　グループワーク
3	福祉事務所の業務と組織Ⅰ	福祉行政の中における福祉事務所の業務と組織を理解する。　グループワーク
4	福祉事務所の業務と組織Ⅱ	福祉行政の中における福祉事務所の業務と組織を理解する。
5	現代社会と福祉事務所の運営	福祉事務所取り巻く環境や運営を理解する。
6	福祉事務所と関係社会資源との連携Ⅰ	福祉事務所は、多くの関係機関と連携することにより生活者を支援できることを理解する。
7	福祉事務所と関係社会資源との連携Ⅱ	福祉事務所は、多くの関係機関と連携することにより生活者を支援できることを理解する。
8	福祉事務所の運営と民生委員の役割	福祉事務所という行政の現業部門と住民とをつなぐ役割である民生委員の役割を理解する。
9	社会福祉主事の専門性と倫理	福祉の最前線で活動する社会福祉主事は高い倫理観が求められることを理解する。
10	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術	福祉事務所における現業員（ケースワーカー）である社会福祉主事の役割と援助の方法を理解する。
11	福祉事務所と生活保護	福祉事務所の中で最もソーシャルワークを必要とする生活保護制度を理解する。
12	福祉事務所における自立支援の事例	福祉事務所において関わる様々なケースや自立支援の事例から福祉のあり方を理解する。
13	新聞記事を題材とした福祉の考察	身近な新聞記事を題材として福祉がどのように取り扱われているか理解する。
14	授業全体のまとめ	授業を総括し、より一層の福祉理解を進める。
15	テスト	福祉事務所のみならず、福祉全般についての理解度をテストする。

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	社会福祉施設経営論	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	社会福祉施設の経営のあり方に関する歴史と理論を学び、競争原理のもとで、措置から契約へと移行した施設経営の今後に関して学ぶ。
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	社会福祉施設の沿革、制度、経営等を知り、地域に必要とされる施設のあり方について学ぶ。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	学生自らが理想の施設像を描くことができるようにする。
授業担当者	宮本　登	
実務家教員	○	静岡県立施設での管理職としての実務経験
使用テキスト 参考文献	『社会福祉施設経営管理論』全国社会福祉協議会(2024)	
評価方法	授業終了後、「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスを配布し、授業の目的、方法、内容、受講上の留意点などを説明する。
2	社会福祉法人の意義と役割	社会福祉法人の現況と社会福祉法人制度設立の経緯を知り、社会福祉法人の意義と役割について考える。
3	社会福祉法人の組織の在り方	社会福祉法に求められる組織の在り方について理解する。
4	社会福祉施設の使命（社会的役割）	社会福祉施設の目的の変遷や多様化する運営主体や企業の参入との関係からも現代の社会福祉施設の社会的意義を考える。
5	社会福祉施設の概況と推移	社会福祉施設へのニーズの変化と施設の推移、社会福祉施設の数的現状を理解する。
6	社会福祉法人・施設の経営管理	「措置」制度から「利用契約」制度への変化と社会福祉法第24条の目的を理解し、社会福祉法人・施設の今後の経営管理をりかいする。
7	経営管理と問題解決	経営管理（者）の具体的役割としての問題解決とモチベーションについて理解する。
8	組織におけるリーダーシップ	現代の公的組織のリーダーに求められるリーダーシップのあり方について考える。
9	社会福祉法人・施設のサービス管理	社会福祉法人・施設のサービス管理の必要性と検討の枠組みとマーケティングを理解する。
10	福祉サービスの品質マネジメント	品質マネジメンを行うためのプロセス、物的環境要素、人的要素の管理について理解する。
11	社会福祉施設のリスクマネジメント	リスクマネジメントとサービス管理について理解する。
12	リスクマネジメントの取り組み	前回講義を踏まえてうえでリスクマネジメントの体制作りについて考える。
13	福祉サービスの評価	社会福祉法成立によって開始された「第三者評価」の意味について理解する。
14	社会福祉施設における契約	措置制度から契約制度への変化に伴う社会福祉施設の経営の変化を理解する。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	社会福祉施における権利擁護	権利擁護とは何か？社会福祉施設の権利擁護を考える上での基礎知識を理解する。
16	社会福祉法人・施設の人事・労務管理	社会福祉法人・施設のこれからの人事管理の基本的な考え方や具体的な施策を理解する。
17	人事考課制度	人事考課制度の導入と適正な運用について理解する。
18	社会福祉法人・施設における職員研修	人事管理や施策推進の一環としての人材育成や職員研修の在り方について考える。
19	社会福祉施設の労務管理	社会福祉施設の使命を果たし、適切なサービス提供を可能にするための職員に対する普段の労務管理を理解する。
20	社会福祉施設の会計管理と財務管理	社会福祉施設の会計管理と財務管理の実際と必要な知識を習得する。
21	社会福祉法改正による財務規律の強化	社会福祉法の幅広い改正の中の一つである財務規律の強化について理解する。
22	社会福祉施設の情報管理	個人情報保護に関する基本ルールを理解する。
23	公益通報者保護	公益通報者保護法の目的と実際の通報者保護について理解する。
24	情報と法の関係	情報と法の関係をりかいし、情報にかかわる法的課題を理解する。
25	社会福祉施設の施設設備管理	社会福祉施設の施設整備助成制度について理解する。
26	社会福祉施設の建物・設備管理	安全で使い易い建物の維持・保全管理を広範囲にとらえ理解する。
27	危機管理・防火防災計画	社会福祉施設（建物）の危機管理、防火防災を考える。
28	福祉用具の活用と維持管理	利用者個々人のニーズに応じた福祉用具を選択し適合し、使用法を考える意義を理解する。
29	時事問題	新聞やニュースなど、学生自身が各種報道を検索し、現状を理解する。授業全体を振り返り、試験の内容と方法を説明する。
30	試験日	「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	社会福祉現場実習指導Ⅰ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	社会福祉援助技術現場実習を行うために必要な知識として、実習先の種別や機能、根拠法などについて学び、求められる相談援助の機能と技術について学ぶ。また、ソーシャルワーカーを目指す動機を説明することができ、自分の目指す将来像を具現化することができる。	
学年	2年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	①ソーシャルワーカーを目指す動機を説明できることを目的とし、実習教育全体像を理解したうえで、その動機を説明できるための学習を進めていく。 ②配属実習で、人々と環境の交互作用を理解できるようになるために、「地域社会の概況」「人々の暮らし」「地域社会の社会資源」「実習施設の概要」を知る。 ③配属実習で、ソーシャルワークがどのような枠組みの中で、誰の（何の）ために行われているのかを理解できるようになるための事前学習を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	①相談援助実習の意義について理解する。 ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等について理解する。 ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求めらる課題把握等、総合的に対応できる能力について理解する。 ④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力について理解する。	
授業担当者	井川　真世		
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	・最新　社会福祉士養成講座　８　ソーシャルワーク実習指導　ソーシャルワーク実習　［社会専門］（中央法規） ・社会福祉小六法 ・見て覚える！社会福祉士国試ナビ2025		
評価方法	・出席率　・授業態度（グループワーク時も含む）　・提出物（課題）評価　・実習計画書、事前学習評価		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの理解	ソーシャルワークの理解　ソーシャルワークの専門性
2		ソーシャルワーカーが活躍する施設・機関の理解
3	相談援助実習展開プログラム	相談援助実習で身につけること
4		実習プログラムの内容　社会福祉士の役割
5	個別面談	実習先の希望・選定　　個人票の作成
6		実習先の希望・選定　　個人票の作成
7	相談援助実習展開プログラム	相談援助実習と介護実習の違い
8		ソーシャルワーク実習における個別支援計画の立案
9	実習先の理解	実習施設、実習地域における基本的理解
10	事前学習	情報収集　アセスメント方法
11		個別ニーズの発見方法
12		地域ニーズの発見方法
13		アセスメントからのプランニング方法
14		事例　支援計画の立案
15		実習課題を見つける

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	社会福祉現場実習指導Ⅱ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	社会福祉現場実習を行うために必要な知識として、実習先の種別や機能、根拠法などについて学び、求められる相談援助の機能と技術について学ぶ。また、ソーシャルワーカーを目指す動機を説明することができ、自分の目指す将来像を具現化することができる。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	①ソーシャルワーカーを目指す動機を説明できることを目的とし、実習教育全体像を理解したうえで、その動機を説明できるための学習を進めていく。 ②配属実習で、人々と環境の交互作用を理解できるようになるために、「地域社会の概況」「人々の暮らし」「地域社会の社会資源」「実習施設の概要」を知る。 ③配属実習で、ソーシャルワークがどのような枠組みの中で、誰の（何の）ために行われているのかを理解できるようになるための事前学習を行う。 ④実習を振り返り、ソーシャルワーカーとしての学びは何かを説明できるために、配属実習と実習教育全体の振り返りを行う。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	①社会福祉現場実習の意義について理解する。 ②社会福祉実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求めらる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	
授業担当者	井川　真世		
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	・最新　社会福祉士養成講座　８　ソーシャルワーク実習指導　ソーシャルワーク実習　［社会専門］（中央法規） ・社会福祉小六法 ・見て覚える！社会福祉士国試ナビ2025		
評価方法	・出席率　・授業態度（グループワーク時も含む）　・提出物（課題）評価　・実習計画書、事前学習、実習記録評価		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ソーシャルワーク実習の意義　実習課題・実習目的
2	実習先の理解	実習先における社会福祉士の役割　実習施設、実習地域における基本的理解
3	個人票の作成	個人票作成　個人面談
4	実習計画書作成	実習計画書作成　個人面談
5		実習計画書作成　個人面談
6	個人情報保護	個人情報保護法　実習における個人情報の扱い
7	事前学習	社会福祉士の役割
8		情報収集　アセスメントからのプランニング方法
9		2年生の実習相談会（面接技術演習）
10		相談援助に係る法制度のまとめ
11		実習で求められる行動
12		実習記録ノートの書き方
13	ソーシャルワーク実践に求められる技術	アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション
14		ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャル・マーケティング、ソーシャルアクション
15	プレゼンテーション	実習前壮行会

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	社会福祉現場実習		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	社会福祉関係の各種機関・団体、施設でのソーシャルワーク実習を通して、以下のねらいをもつ。 ① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ② 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 ③ 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	「施設・機関における相談援助活動の理解」、「援助対象者・家族の理解」、「施設が設置されている地域、またはクライエントが生活している地域の理解」、「個別・集団・地域援助方法の理解」、「他専門職とのチームアプローチの理解」などが含まれる。	
授業回数	120時間(15日間)		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	3単位	1) 社会福祉主事と社会福祉士の指定科目の知識と技術を統合し、相談援助に従事する専門職としての価値と倫理に基づく支援を行う実践力を養う。 2) 支援が必要な人々と地域社会の状況を理解し、生活課題とニーズを把握する。 3) 生活課題とニーズに対応するため、クライエントのストレングスの観点を重視し、フォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した個別支援計画を立案する。 4) 実習先が地域社会において果たしている役割を具体的に理解する。 5) 総合的・包括的支援を行うため、実習先が行っている関係機関・団体との連携、地域住民との連携、そして、施設内での多職種連携を具体的に理解する。	
授業担当者	井川 真世 石田 麗		
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験 障害者支援施設における相談員としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	・最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習 ［社会専門］（中央法規） ・『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 』過去のテキスト 辞典 福祉小六法など		
評価方法	実習指導者の評価、実習巡回教員の評価、実習担当教員の評価を総合して行う。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
	第5期実習	社会福祉現場実習と相談援助実習、両実習を通して、以下の10の内容を盛り込み指導を受ける。具体的には、学生が作成した実習計画を反映できるよう、事前オリエンテーションにおいて、学生と実習指導者間で協議・検討し、実習プログラムを決定していただく。 1) クライエントやその関係者(家族・親族・友人等)、そして、関係機関・団体、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成を行う。 2) クライエントやその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成を行う。 3) クライエントや地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び 評価を行う。 4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護活動とその評価を行う。 5) 多職種連携とチームアプローチのあり方を実践的に理解する。 6) 実習先が地域社会の中で果たす役割と具体的な地域社会への働きかけを学ぶ。 7) 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発について理解する。 8) チームマネジメントや人材管理など、実習先の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ。 9) 社会福祉士としての職業倫理と組織内における社会福祉士の役割や責任について理解する。 10) アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションといったソーシャルワーク実践に求められる技術を実践的に理解する。 ※第5期社会福祉現場実習終了前には、反省会の中で次の第6期相談援助実習での目標・計画、次までに行うべき課題についても指導を受ける。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	社会福祉行政論		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	社会福祉政策の基盤である行財政の仕組みと法制度を学ぶとともに、福祉系核の経緯と今後の展望に関して学ぶ。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	ソーシャルワークには、間接援助技法のひとつとしてソーシャルプランニングが位置付けられている。この技法には、市町村、都道府県、国といったさまざまな枠組みがあるが、「地方自治」の観点からすると、基礎自治体である市町村が最も重要な役割を果たしているため、市町村福祉計画を中心に学びを深めていく。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	地域社会を実質的に構成している地方自治体・地方公共団体の枠組を理解するとともに、それらを社会福祉・社会保障の分野から動かしている福祉計画の機能と役割を現場での実践に活かせるようにする。	
授業担当者	磯野　博		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 』		
評価方法	受講態度、県内の市町村における福祉計画（老人、障害、子育て、地域）の概要と独自の提案に関する報告内容を評価対象にする。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスを配布し授業概要を説明するとともに、受講上の留意点を周知徹底する。
2	ソーシャルワークと福祉計画	地域で実際に福祉・介護を動かす福祉計画にはどのようなものがあるか理解する。
3	福祉計画の歴史的経緯	社会福祉緊急整備5ケ年計画から現在まで福祉計画の経緯と時代背景を理解する。
4	介護保険財政の概要	介護保険を支える財政の仕組みと財政の持続可能性のための取り組みを理解する。
5	障害者支援財政の概要	障害者支援を支える財政の仕組と財政の持続可能性のための取り組みを理解する。
6	子育て支援財政の概要	子育て支援を支える財政の仕組と財政の持続可能性のための取り組みを理解する。
7	地域福祉財政の概要	地域福祉を支える財政の仕組みと財政の持続可能性のための取り組みを理解する。
8	老人福祉計画・介護保険事業計画	老人福祉分野での福祉計画の概要と市町村における特徴的な取り組みを理解する。
9	障害者プラン・障害福祉計画	障害者福祉分野の福祉計画の概要と市町村における特徴的な取り組みを理解する。
10	次世代育成支援対策行動計画・子ども子育て支援計画	子育て支援分野の福祉計画の概要と市町村における特徴的な取り組みを理解する。
11	地域福祉計画・地域福祉活動計画	地域福祉分野での福祉計画の概要と市町村における特徴的な取り組みを理解する。
12	福祉計画策定演習①	老人、障害、子育て、地域のグループに分かれ分野ごと福祉計画の特徴をまとめる。
13	福祉計画策定演習②	分野ごと、都心、都市近郊、中山間地域など、地域的な福祉計画の特徴をまとめる。
14	福祉計画策定演習③	グループごと、特徴的な市町村の福祉計画の概要と独自の提案について報告する。
15	まとめ	授業全体を振り返るとともに、評価方法などを確認する。

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	家庭福祉論	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	子ども・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境の変化や現状を理解し、子ども・家庭の福祉ニーズを学ぶ
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	子どもや家庭を取り巻く社会環境や近代家族から現代家族に至る家族の変容、子育て世代の労働環境、子育て子育ちを巡る地域環境の変容が子どもや家庭に与える影響について理解する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	近年の児童・家庭福祉問題について主体的に学び、学生自らが最善の家庭支援策をイメージできるようにする。
授業担当者	宮本　登	
実務家教員	○	児童相談所、母子生活支援施設での児童指導員、管理者としての実務経験
使用テキスト 参考文献	『社会福祉学習双書　児童・家庭福祉』全国社会福祉協議会(2024)	
評価方法	授業終了後、「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスを配布し、授業の目的、方法、内容、受講上の留意点などを説明する。
2	児童・家庭福祉の基本的理解	児童・家庭福祉の理念と基本的理解を行う。
3	子供の人権・権利保障	子供の人権・権利保障の歴史と現状を理解する。
4	児童・家庭福祉制度の展開	日本における児童・家庭福祉制度の展開を理解する。
5	児童・家庭の生活実態と社会環境	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境について考える。
6	児童・家庭福祉制度と関係機関	児童・家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割について理解する。
7	母子保健	一連の母子保健サービスについて理解する。
8	子育て支援・保育	現代の子育て支援・保育とは何かを考え理解する。
9	児童の健全育成	児童の健全育成の仕組みと取り組みについて理解する。
10	スクールソーシャルワーク	スクールソーシャルワークの基本的理解を深める。
11	子どもと家庭における貧困	子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉について理解する。
12	社会的養護	社会的養護の基本理念、仕組みについてりかいする。
13	児童虐待	児童虐待の基本的理解と対応について理解する。
14	障害児福祉	障害児福祉について理解する。
15	試験日	「学習の手引き」に従い試験を実施し、評価する。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	ビジネス実務		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解し、初歩的な仕事を処理するために必要な知識やビジネスマナーを学び、社内外の人と良好な関係を築くために求められるコミュニケーション能力を習得する。	
学年	1年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	ビジネスとコミュニケーションの基本、仕事の実践とビジネスツール、社会常識、の分野を学び、職業人にとって必要な知識とスキルを総合的に身につける。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	文部科学省認定「ビジネス能力検定3級」の検定取得を目標とする。 「社会人常識マナー検定3級」の検定取得を目標とする。	
授業担当者	伊藤　知圭子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	日本能率協会マネジメントセンター　発行　文部科学省認定 「ビジネス能力検定3級公式テキスト」 日本能率協会マネジメントセンター　発行　文部科学省認定 「ビジネス能力検定3級公式試験問題」 公益財団法人　全国経理教育協会　発行 「社会人常識マナー検定テキスト2・3級」		
評価方法	授業態度、出席状況および検定取得状況により評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会人としての自覚
2	組織と役割	会社組織の成り立ちを理解し、リーダーとフォロワーに必要なものを知る
3	社会の変化	多様な雇用形態を知り、変動する社会に対応する力を身につける
4	仕事と目標	目標が持つ意味、重要性を理解する
5	主体性と組織運営	社会の一員として、社会を支える当事者であることを自覚し、目的意識を持つ
6	幅広い社会常識	政治・経済や税金・社会保障に関連する基礎知識を身につける
7	日本語の意思伝達	ビジネスの基礎は日本語で、漢字の読み書きを再確認する
8	社会常識の知識	日常生活に浸透するカタカナ用語や欧文略語などのキーワードを身につける
9	ビジネス計算	ビジネスにおける計算力の重要性を理解する
10		分析力・思考力・応用力の重要性を理解し、数式を元に課題を解決する力を身につける
11	ビジネスにおけるコミュニケーション	意思疎通の重要性を理解し、良い人間関係のためのコミュニケーションを身につける
12	コミュニケーション力向上のポイント	第一印象の重要性を理解し、好感を持たれる立ち居振る舞いや挨拶・美しいお辞儀を身につける
13	敬語を使いこなす	尊敬語、丁寧語、謙譲語を使い分け、職場での言葉遣いを身につける
14	効果的に伝える	わかりやすい話し方と上手な聞き方を学ぶことで、好感を持たれる話し方を身につける
15	ビジネス文書の活用	ビジネス文書の種類と形式を学び、ビジネス文書の作成のポイントを理解する
16	まとめ	授業の振返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	就職指導	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	① 自分自身を客観的に知り、表現する方法を見つける。 ② 就職に必要な知識を養う。
学年	2年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	就職活動は自分の仕事を中心とした人生（将来）を考え、設計する為の重要な役割を果たし、自己実現に向けた第一歩であることを理解させる。自己を知り、敵（企業などの就職先）を知って、いかに自分を高く売り込めるかを学ばせる。「講義」は与えられたものとして受け止めるのではなく、自分自身のものとして理解し実施していこうとする学習姿勢を重要視する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	本授業では、「就職」というゴールに加え、学生が「キャリア自律」について理解することを目標とする。
授業担当者	原木伴美	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック（自己理解編・社会理解編）、イラスト図解！就職ワークブック、就職成功へのステップ その他自作プリント、ジョブカード様式	
評価方法	授業態度、出席率、課題提出による総合評価とする。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	働くことについて理解しよう～自分にとって働くとは？～
2	自己理解を深めよう	自分の性格や価値観についてじっくり考えて洗い出して考えてみよう。
3	自分と仕事について考えよう	ワークシートを使って、自分と仕事について考えてみよう。
4	他者から見た自分を知ろう	グループワーク「ジョハリの窓」を実施して、自己理解を深めよう。
5	仕事について理解しよう①	職業の種類と仕事の内容を知り、自分のなりたい職業との関係を知ろう。
6	仕事について理解しよう②	自分の目指す職業と業界について知り、仕事と職場への理解を深めよう。
7	グループワーク	社会人基礎力について理解し、身に付けるためのグループワークを実施しよう。～論理パズルをしよう～
8	自己表現に向けて①	就活面接の「三大質問」について理解し、対策しよう。
9	自己表現に向けて②	履歴書の書き方を学ぼう
10	グループワーク	社会人基礎力を身に付けるためのグループワークを実施しよう。～戦国村を探れ！～
11	面接試験に備えよう①	履歴書を書こう
12	面接試験に備えよう②	作文・小論文、筆記試験について知ろう
13	面接試験に備えよう③	面接について学ぼう。
14	面接試験に備えよう④	話し方の基本を学び、模擬面接をしてみよう。
15	まとめ	社会に出るために必要なことを学ぼう 社会人基礎力を身に付ける②コンセンサス実習～雪山遭難ゲーム～

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	ゼミナール（福祉研究・ICT活用技法）Ⅰ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	総合福祉学科の学習指導方針は、『急速な少子・高齢化が進展するなか、介護分野の中核的人材として介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる介護福祉士の養成、これを土台として、社会状況の変化や法制度の創設を踏まえ、高齢者・障害者・児童・生活困窮者など、すべての分野において活躍できる総合的力量を持ったジェネリックソーシャルワーカー〝Generic Socialworker〟の育成』を目的としている。この目標達成のために、課題に対する思考，社会調査･体験，研究成果の発表などを通して，問題解決能力を身につけ、「創造性向上」「自己実現達成」の力を養うことを目的とする。
学年	1年 2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	①1年次は、フィールドワークを通じて、学校周辺の地域福祉について学び、活動することで、地域活動の基礎を学ぶ。 ②2年次は、3年次に始める地域活動、研究テーマについて取り組む準備を行う。 ③3学年合同の時間を作ることで、総合福祉学科の縦の関係づくり、それぞれの学年における役割、他学年との連携を学び、今後の地域活動等に活かしていく。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	①グループ、他学年と協力、連携を取りながら、福祉研究についての理解を深めていく。 ②福祉における各種制度や福祉以外の世界にも目を向け、様々なものに興味を持ち、広い視野を持つことができるようになる。 ③3年間の学びが継続的、発展的なものになるよう、準備することができる。
授業担当者	石田　麗 井川　真世 加藤　浩和	
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験（石田） 特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験(井川) 老人保健施設における相談員としての実務経験（加藤）
使用テキスト 参考文献	・適宜必要資料配布 必要書類、情報は積極的に自分で収集していくこと	
評価方法	・出席率（授業、地域活動）　・授業態度／活動態度　・提出物（課題）評価　・活動報告発表　・資格試験結果	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的・意義
2	地域共生の在り方	介護・福祉関連施設について（ステップアップレッスン課題の共有）
3		高齢者や障害者を取り巻く社会状況
4		自立支援のあり方
5		地域に潜むニーズの明確化
6		福祉マップの共有（ステップアップレッスン課題2の共有）
7		社会資源とはなにか
8		ニーズと社会資源の繋げ方について考える
9	1年、3年 合同ゼミナール	ソーシャルワーカーはなにをする人なのか
10		「社会資源」とはなにか
11		地域の困りごと（課題）とはなにか
12		フィールドワーク

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
13	地域活動	活動まとめ
14		活動まとめ
15		各活動報告会
16	研究へのステップ	福祉研究とは
17		研究の仕方
18	地域活動とは	自分の地域の地域福祉
19		事例検討
20		活動内容検討
21		活動計画作成
22	合同ゼミナール	3TW第5期実習報告会
23	地域活動	フィールドワーク、研究課題への取り組み
24		
25		
26		
27		活動内容のまとめ
28		発表準備
29		発表
30	合同ゼミナール	3TW第6期実習報告会

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	ゼミナール（福祉研究）Ⅱ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	総合福祉学科の学習指導方針は、『急速な少子・高齢化が進展するなか、介護分野の中核的人材として介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる介護福祉士の養成、これを土台として、社会状況の変化や法制度の創設を踏まえ、高齢者・障害者・児童・生活困窮者など、すべての分野において活躍できる総合的力量を持ったジェネリックソーシャルワーカー〝Generic Socialworker〟の育成』を目的としている。この目標達成のために、課題に対する思考，社会調査･体験，研究成果の発表などを通して，問題解決能力を身につけ、「創造性向上」「自己実現達成」の力を養うことを目的とする。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	グループに分かれ、今の社会における地域課題や未来における福祉業界について、調査、研究していく。自分達で地域課題、社会福祉課題を挙げ、それに対応するために何が必要なのか考えていく。同時に、地域活動に参加し、地域住民や生活のしづらさを抱えている当人達より情報を集める等積極的地域に関わっていく。年間通して地域活動に参加しながら、後期には自分達の活動内容、今後につなげる為活動方法、社会福祉士のあるべき姿等を卒論にまとめ発表する。	
授業回数	60回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	8単位	①グループ内で協力、連携を取りながら、福祉研究についての理解を深めていく。 ②福祉における各種制度を理解した上で、自分の知識等を活用し生活の質の向上に向けた支援や相談援助の実践に取り組める準備ができる。 ③3年間学んだ知識、技術を発揮し、実践を通してソーシャルワーク専門職として何が大切なのか自分の言葉で発信することができる。	
授業担当者	石田　麗 井川　真世		
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験（石田） 特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験(井川)	
使用テキスト 参考文献	・適宜必要資料配布 必要書類、情報は積極的に自分で収集していくこと		
評価方法	・出席率（授業、地域活動）　・授業態度／活動態度　・提出物（課題）評価　・卒業研究発表		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	「社会福祉士に求められる役割」とは　ゼミナールの意義
2	あなたにとっての社会福祉	今年度の目標設定　学習計画
3		興味のある社会福祉課題
4		資料収集　福祉問題、福祉課題、先行研究
5	自分の将来像	自己PR　自分に気づく
6		ビジネスマナー
7		ビジネスマナー
8		総合福祉学科で身につけたい12の力
9	研究テーマの選定、計画作成	研究とは何か
10		
11		1）「どのような分野で研究するのか」「どの地域で研究するのか」「研究対象になる活動はあるのか」等、分野ごとでグループを形成。 2）何を研究したいのか、なぜ研究したいのか等目的、計画を作成。 3）活動団体等に直接依頼し、活動の場所を決める
12		
13		
14		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15		
16		
17	1年、3年 合同ゼミナール	ソーシャルワーカーはなにをする人なのか
18		「社会資源」とはなにか
19		地域の困りごと（課題）とはなにか
20	地域活動	1）地域活動へ参加　フィールドワーク 2）参加後は、活動内容をまとめ、報告書にまとめていく 3）現場での調査やデータ収集、分析等を行い、活動内容も深めていく
21		
22		
23		
24		
25	分析、研究	現状の分析、課題抽出のまとめ　ボランティア活動、地域活動、実習等から得られた研究テーマに対する考察の発表
26		
27		
28	前期まとめ	前期研究のまとめ　各自研究の共有
29		報告会、討論会
30		
31		研究計画の練り直し　研究課題、考察
32	2，3年 合同ゼミナール	第5期実習報告会
33		
34	清水看護 合同授業	自己の学ぶ職種の専門性について　発表準備
35		専門職連携教育（IPE）授業
36		
37	第1回　介護福祉士国家試験模試　受験、解説	
38		
39		
40		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
41	地域活動、調査、分析、研究	定期的な活動、調査、分析をしながら、資料作成に取り組み、卒業研究発表会の準備を進める
42		
43		
44		
45		
46		
47	第2回　介護福祉士国家試験模試　受験、解説	
48		
49		
50		
51	卒業研究制作	・論文抄録の完成 ・プレゼンテーションの制作 ・発表準備
52		
53		
54		
55	1, 2, 3年 合同ゼミナール	第6期実習報告会 総合相談会
56		
57	発表準備	卒業研究発表会　運営準備・発表準備・リハーサル
58		
59		
60		

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	社会学	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	社会学の視点の基本を理解するとともに、社会のとらえ方を学び、現代社会の姿を理解する。また、社会関係について学び、家族、地域等の関係についても把握するとともに、社会問題の捉え方も身につけることを目標とする。
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	社会学のさまざまな視点を紹介しながら、社会福祉、相談援助との関係性を検討していく。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	現代社会の構造や生起している問題、課題を相談援助実践と連結して考えることを習得することができる。
授業担当者	塚本　鶴樹	
実務家教員	○	横浜市社会福祉専門職として福祉事務所のケースワーカーに従事した実務経験
使用テキスト 参考文献	（テキスト）適宜プリントや資料などを配布する。 （参考文献） 三本松政之、杉岡直人、武川正吾編著（2009）『社会理論と社会システム』ミネルヴァ書房	
評価方法	最終試験に加え、出席状況や提出物、授業態度等も加味し、総合的に判断する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会とは、社会学とは何か。そして、システムとは
2	ソーシャルワークと社会学	相談援助における問題解決のための社会学的視点
3	家族	社会の中の家族と福祉
4	都市	都市化、異質化の増大
5	地域社会	高齢化、人口の変化と地域社会
6	格差社会	社会階級、社会階層
7	ジェンダー	男女共同参画社会
8	グローバル社会、エスニシティ	物・資本・情報・人の移動
9	健康と医療	寿命、ライフスタイル
10	ケア	ケア倫理
11	社会問題	社会問題への社会学的アプローチ
12	社会集団と組織	多様な社会集団とNPO
13	社会構造と社会変動	地位と役割 社会システムと社会構造
14	現代社会の行方	混迷と多様性
15	まとめ	授業全体の振り返りと評価方法の確認

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	社会調査の基礎	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	量的調査、質的調査の基本を身につけるとともに、簡単な統計処理を学ぶことで、基礎的な社会調査の知識を習得し、相談援助実践に有効活用できるようになることを目標とする。
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	社会調査の基礎、特に質的調査における対象者の選定、データ収集のための面接技法を紹介し、さらに相談援助の各プロセスにおける実践的な調査についても検討する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	社会調査の基本を簡単な統計処理とともに学び、相談援助実践において調査を企画し、実施することができる。
授業担当者	塚本　鶴樹	
実務家教員	○	横浜市社会福祉専門職として福祉事務所のケースワーカーに従事した実務経験
使用テキスト 参考文献	（テキスト）適宜プリントや資料を配布する。 （参考文献） 瀬谷有二、杉澤秀博、武田丈編著（2010）『社会調査の基礎』ミネルヴァ書房	
評価方法	最終試験をもとに、出席率、授業態度およびグループワーク等の成果物によって総合的に判断する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスの説明
2	社会調査と社会福祉従事者	社会福祉における社会調査
3	問いの設定と調査の流れ	相談援助に関わる調査のための問い
4	調査対象者の選定、標本抽出	調査目的と量的、質的調査における対象者船体（標本抽出）
5	質的調査におけるデータ収集と調査倫理	面接法と観察法
6	質的調査におけるデータの整理と分析	質的データの特性とデータのまとめ方
7	中間のまとめ	時間内試験
8	量的調査1	データ収集、測定
9	量的調査2	量的データの整理、分析
10	量的調査3	度数分布と基本統計量
11	リサーチデザイン、統計法、個人情報保護	調査企画と公的統計
12	ニーズ調査	福祉ニーズとサービス
13	プログラム評価	プログラム評価の意義、種類
14	実践評価	実践評価の必要性
15	まとめと展望	社会福祉調査の展望

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	定義、歴史、理念等ソーシャルワークの基本的な考え方や地域を基盤としたソーシャルワークを学ぶ。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	１年次履修済の相談援助の基盤と専門職Ｉのフォロー科目である。引き続き、理論の基盤とともに事例学習を通して、総合的に相談援助職としての専門性を身につけるとともに、国家試験対策も実施してゆく。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	相談援助に関する基本的な考え方を理解し、実践に活用するための基礎を習得することができる。	
授業担当者	塚本　鶴樹		
実務家教員	○	横浜市社会福祉専門職として福祉事務所のケースワーカーに従事した実務経験	
使用テキスト 参考文献	社会福祉士養成講座編集委員会編(2015)『相談援助の基盤と専門職』中央法規 田中英樹ほか編(2015)『ソーシャルワーク演習のための88事例』中央法規		
評価方法	最終試験をもとに、出席率、授業態度およびグループワーク等の成果物によって総合的に判断する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	相談援助、ソーシャルワークについて
2	相談援助＝ソーシャルワークの定義	ソーシャルワークのグローバル定義と日本の社会福祉士及び介護福祉士法における定義
3	相談援助＝ソーシャルワークの歴史1	英米におけるソーシャルワークの発展
4	相談援助＝ソーシャルワークの歴史2	日本のソーシャルワークの歴史
5	相談援助＝ソーシャルワークの理念1	ソーシャルワーク実践と価値、権利擁護
6	相談援助＝ソーシャルワークの理念2	クライエントの尊厳と自己決定、ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン
7	相談援助＝ソーシャルワークにかかわる専門職1	相談援助専門職とは何か
8	相談援助＝ソーシャルワークにかかわる専門職2	相談援助職の範囲と諸外国の動向
9	専門職倫理と倫理的ジレンマ1	専門職倫理の概念と意義、内容
10	専門職倫理と倫理的ジレンマ2	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ
11	総合的かつ包括的な相談援助1	ジェネラリストソーシャルワークの意義、特質
12	総合的かつ包括的な相談援助2	総合的かつ包括的な相談援助の動向
13	総合的かつ包括的な相談援助3	地域を基盤としたソーシャルワーク
14	事例研究1	ケースワークの活用、グループワークの活用
15	事例研究2	コミュニティワークの活用

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	相談援助の理論と方法		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	要援護者に対する相談援助とは、適切な理論に基づいて行われるものであり、そのさまざまな手法を学び身につける。国家試験科目としては平易なものに該当するが、それを適切に解答することができる視点を身につけるとともに国家試験対策として関連科目との関連も学ぶ。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	相談援助の理論の基礎となっている社会理論との関係を学び、また、さまざまなモデル・アプローチ、プロセス、面接技法、記録等の実践的な知識習得を目指し、さらに国家試験対策も行う。	
授業回数	60回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	8単位	基本的な相談援助の理論と方法を身につけるとともに、相談援助実践につながる基礎的な技術を習得することができる。	
授業担当者	塚本鶴樹		
実務家教員	○	横浜市社会福祉専門職として福祉事務所のケースワーカーに従事した実務経験	
使用テキスト 参考文献	いとう総研資格取得支援センター編(2018)『社会福祉士国試ナビ2019』中央法規 （参考文献） 社会福祉士養成講座編集委員会編（2018）『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の理論と方法』中央法規		
評価方法	最終試験を基に出席率、実習内容、授業内における成果物等によって総合的に判断する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション あらためて相談援助とはなにか	相談援助に関連する知見、相談援助の定義等
2		
3	相談援助のモデル	3つのモデル
4		
5	相談援助の対象	人と環境、その交互作用
6		
7	相談援助と福祉国家	福祉レジームと相談援助
8		
9	相談援助のモデルとアプローチ	3つのソーシャルワークモデルと様々なアプローチの関係
10		
11	相談援助のアプローチ	心理社会的アプローチ、問題解決アプローチ、機能的アプローチ、課題中心アプローチ等
12		
13		危機介入アプローチ、行動変容アプローチ、エコロジカルアプローチ等
14		
15		エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、解決志向アプローチ等

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	相談援助のアプローチ	エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、解決志向アプローチ等
17		アプローチに関する事例研究
18		
19	まとめ1	まとめと時間内テスト
20	相談援助のプロセス	インテーク、アセスメント、プランニング、介入
21		
22		モニタリング、エバリュエーション、終結
23	関係の構築と面接技術	信頼関係の構築とコミュニケーション
24		プレゼンテーション
25		ネゴシエーション
26	記録	記録の意義
27		記録の種類
28		記録の書き方、留意点
29	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの機能、種類
30		コンサルテーションの意義、機能
31	マネジメント、社会資源、ネットワーキング	ケースマネジメント（ケアマネジメント）の概要
32		フォーマル、インフォーマルな社会資源とネットワーク
33	まとめ2	中間試験と振り返り
34		
35	福祉サービスの組織と経営	相談援助と組織、経営
36		
37	福祉行財政と福祉計画	相談援助と福祉計画
38		
39	低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者支援における相談援助
40		
41	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障がい者支援における相談援助
42		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
43	更生保護制度	更生保護と相談援助
44		
45	就労支援サービス	就労支援における相談援助
46		
47	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	家庭・児童支援における相談援助
48		
49	権利擁護と成年後見制度	権利擁護と相談援助
50		
51	人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援	心理学と相談援助
52		
53	現代社会と福祉、社会保障	さまざまな社会保障制度、サービスと相談援助
54		
55	保健医療サービス、高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者支援における相談援助
56		
57	社会福祉士の業務を理解する①	社会福祉士の活動分野
58		
59	社会福祉士の業務を理解する②	介護と社会福祉士
60		

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	社会保障論Ⅰ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	国民（住民）の生活を支える各種の社会保障の構造と内容について学ぶ。同時に、それらが形成されてきた経緯について概観する。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	後期「社会保障論Ⅱ」の前段階として総論的・基本的内容を学習するが、時事問題にも配慮し、随時紹介する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	社会保障に関する知識を獲得するのみではなく、福祉・介護サービスと、サービス利用者の基盤にある社会保障の仕組みを理解する。	
授業担当者	磯野　博		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座②『社会の理解』 『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2023』 配布プリント		
評価方法	授業の最終回「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。 出席状況や受講態度なども勘案して評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスを配布し授業概要を説明するとともに、受講上の留意点を周知徹底する。
2	社会保障の機能と役割	所得再分配機能やセーフティーネット機能など、社会保障の機能と役割を理解する。
3	社会保障の対象としての貧困①	社会保障の伝統的対象である絶対的貧困と貧困線、社会階層について理解する。
4	社会保障の対象としての貧困②	社会保障の新たな対象である相対的貧困（剥奪）と社会的排除について理解する。
5	社会保障の人権観	社会保障が形成されるなかで発展してきた人権観について学ぶ。
6	日本における社会保障の歴史①	高度経済成長期の福祉元年、低成長期の福祉見直し、臨調・行改までを理解する。
7	日本における社会保障の歴史②	福祉八法改正、ゴールドプラン・新ゴールドプラン、介護保険法制定までを理解する。
8	医療保険の概要①	国民健康保険、協会健保、組合管掌健保という医療保険の仕組と財源を理解する。
9	医療保険の概要②	国民健康保険、協会健保、組合管掌健保という医療保険の仕組と財源を理解する。
10	公的年金の概要①	国民年金と厚生年金保険の下での老齢、障害、遺族という年金の仕組を理解する。
11	公的年金の概要②	国民年金と厚生年金保険の下での老齢、障害、遺族という年金の仕組を理解する。
12	その他の社会保障①	労働・雇用、住宅など、その他の社会保障について概観する。
13	その他の社会保障②	労働・雇用、住宅など、その他の社会保障について概観する。
14	まとめ	授業全体を振り返り、試験の内容と方法、評価方法について説明する。
15	試験	試験を実施し、解答と解説を行う。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	社会保障論Ⅱ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	社会保障をめぐる国内外の現状と課題を学ぶとともに、社会保障のあり方に関する複数の選択肢に関して学び、今後の社会保障のあり方を展望する。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	各法制度に関する要点やキーワードなど、課題を学生に与え、それらを学生相互の共同作業によって明らかにし、確認していく。 授業後半は、実習先分野ごとのグループにより、事前学習の「2　関係法規」を共同作業によって完成させ、成果を共有する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	実習に向けて作成した事前学習を活用しつつ、書面でも、口頭でも、自らの表現により、利用者に対して関係法規の説明が分かり易くできるようにする。	
授業担当者	磯野　博		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2024』過去のテキスト 辞典 福祉小六法など		
評価方法	実習事前学習をまとめたレポートによって主に評価するが、授業への取り組み姿勢なども総合的に評価に反映する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスを配布し授業概要を説明するとともに、受講上の留意点を周知徹底する。
2	老人福祉法関係①	少子・高齢化、人口減少の推移と実態を踏まえ、老人福祉法の目的などを理解する。
3	老人福祉法関係②	介護保険法の目的と財源、構造と仕組みとともに、主な法改正の推移を理解する。
4	障害者福祉法関係①	障害者手帳の仕組みと受給者数とともに、障害者基本法の目的と内容を理解する。
5	障害者福祉法関係②	障害者総合支援法の目的、構造、仕組みとともに、主な法改正の推移を理解する。
6	社会福祉法関係	社会福祉法人や社会福祉主事とともに、地域福祉計画や第三者評価を理解する。
7	児童福祉法関係	児童憲章や児童の権利条約に加え社会的養護と障害児関連の法制度を理解する。
8	国民皆保険・皆年金関係	国民皆保健・皆年金の意義とともに、持続可能性に向けての現状と課題を理解する。
9	グループ別事前学習①	実習先種別ごとグループを変性誌、関係法規に関する事前学習の課題を共有する。
10	グループ別事前学習②	事前学習項目を確認し、メンバーで役割分担してテキスト、辞典、小六法を検索する。
11	グループ別事前学習③	メンバーで分担した課題を共有し、理解を深め、事前学習の関係法規を完成させる。
12	レポート作成ガイダンス	実習の振り返りを兼ね、関係法規の成果と課題を確認し、レポートテーマを決定する。
13	レポート作成①	レポートのテーマ、骨子を個別に確認し、参考資料のレビューを経て、執筆を行う。
14	レポート作成②	レポートを完成させ、時期実習に向けての法制上の課題を確認する。
15	まとめ	授業全体を振り返るとともに、評価方法などを再確認する。

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	老人福祉論Ⅱ	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	高齢者社会を迎え、高齢者福祉の重要性は増している。また、社会環境の変化に伴い、家族機能や役割も変化し、要介護高齢者の介護及び高齢者本人やその家族への支援が課題となっている。本講義では、1年次に学んだ「老人福祉論Ⅰ」の理解をより深め、社会福祉士として高齢者を取り巻く福祉課題を総合的、科学的に把握し、考察することを目的とする。
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	1. 社会福祉の歴史的発展過程を講義し、制度としての社会福祉の本質を理解する。 2. 社会問題の発生要因とその対策として社会福祉の独自性を考察することができる。 3. 少子高齢化の問題点を統計をもとに講義し、理解する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	①社会福祉の独自性が理解されている。 ②介護・福祉問題の社会性が理解されている。 ③高齢者福祉における社会福祉士の役割について説明することができる。
授業担当者	井川　真世	
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験
使用テキスト 参考文献	・社会福祉小六法　（ミネルヴァ） ・社会福祉士国試ナビ　（中央法規） その他、これまで使用したテキストの活用、適宜プリントを配布	
評価方法	・出席率　・授業態度　・提出物（課題）評価　・試験（介護福祉士国家試験、模擬試験も含む）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	高齢者の特性　少子高齢社会と高齢者
2	少子高齢社会と高齢者	高齢者を取り巻く諸問題　（健康問題、介護問題、経済的問題等）
3	少子高齢社会の現状	映像から高齢社会について読み取る
4		高齢者支援の方法と実際について考える
5	高齢者支援の関係法規	高齢者保健福祉の法体系
6		老人福祉法
7	介護保険制度	介護保険制度の全体像や仕組み
8		介護保険サービスの体系
9		介護保険法改正の流れ
10	地域における高齢者	地域包括ケアシステム
11		地域共生社会の実現にむけて
12	高齢者支援	高齢者を支援する組織と役割
13		高齢者を支援する専門職の役割と実際
14		ロールプレイング
15	まとめ	授業全体の振り返り、学習効果測定

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	障害者福祉論Ⅱ		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	「障害者福祉論Ⅰ」で学んだことを踏まえ、障害者福祉の思想・理念及びその実態と歴史的変遷から、障害者の生活、制度施策の概要と課題を理解する。 社会福祉士としての障害者福祉実践における視点を理解し、障害者ケアマネジメントに必要な知識を習得する。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	1　障害者福祉におけるソーシャルワーク実践の基本的視点を理解する。 2　障害者福祉のサービス体系を理解し、障害者ケアマネジメントの必要性、意味、理念展開過程を理解し、法制度における位置づけについて考察する。 3　障害者の地域生活支援について、問題点や課題を明確にし個々に応じた支援方法を事例を通して理解する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	1　障害者福祉に対する現実の制度や支援の状況を把握する。 2　障害者の「自立支援」「尊厳の保持」を踏まえたうえでのソーシャルワーク実践が理解できる。 3　障害者福祉における社会福祉士の役割について自分自身の意見を持てる。	
授業担当者	石田　麗		
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	8　最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座障害者福祉　　適宜必要資料配布		
評価方法	・出席率　・授業態度　　・提出物（課題）評価　　・試験（介護福祉士国家試験、模擬試験も含む）		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・現代社会における障害者福祉を学ぶ視点
2	障害者制度と障害者基本法と理念	・障害者制度と障害者基本法
3		・障害者福祉の理念
4	障害者の定義 関連データ	・障害者の定義と関連データ（身体障害者・知的障害者・精神障害者）
5		・障害者の定義と関連データ（障害児・発達障害者・性同一性障害）
6	関連する法律や 障害者支援 シンボルマーク	・障害者差別解消法、就労に関する支援、障害者に関するシンボルマーク
7		・社会参加の促進、身体障害者社会参加支援施設
8	障害者総合支援法	・障害者支援と障害児支援の全体像、障害者総合支援法の理念と目的、利用者負担、自立支援医療 ・支給申請からサービス利用までの流れ、支給決定のプロセス
9		・区分による利用可能サービスとその内容の一覧、日中活動と住まいの場の組み合わせ ・地域生活支援事業、障害児支援について、相談支援機関、基幹相談支援センター
10	障害者権利条約の批准	・社会背景と障害者の状況、障害者権利条約
11	障害者差別解消法と障害者雇用促進法と障害者虐待防止法	・障害者差別解消法の概要、障害者雇用促進法の概要 ・障害者虐待防止法の概要、精神保健福祉法における入院制度
12	障害者の生活実態と取り巻く社会環境と 課題	・障害者の生活実態 ・障害者を取り巻く情勢と暮らしの現状について ・障害者の生活における生活問題と支援ニーズについて
13	障害者と家族等の 支援における 関係機関の役割	・障害児・者の家族の現状と背景について ・障害児・者の親やきょうだい、子育てする障害者のニースと支援について ・障害児・者の家族支援のあり方について
14	障害者と家族等の 支援における 関係機関の役割	・障害者福祉に関係する『行政機関』『労働機関』『教育機関』『医療機関』の役割について
15	まとめ	・「65歳の壁」問題とは何を指すか調べまとめる ・「65歳の壁」問題が解決するためにどのようなことやものが必要になるのかをまとめる　→　評価対象課題

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	生活保護制度	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	公的扶助の本質として、単に現金や現物を扶助するのではなく、精神・身体の健康の回復と共に、それぞれのクライエントの個別性を尊重した社会的自立・経済的自立を助長することが重要であることを理解する。
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	生活保護の原理・原則を踏まえ、日本と欧米の公的扶助の形成過程を学ぶ。また、日本の生活保護の現状と課題を学び、今後の生活保護のあり方を展望する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	生活保護を中心にした公的扶助に関する各種法制度を知識として理解することに留まらず、それらを担う福祉事務所や社協の現業院として、また、それらと連携する専門職として、生活困窮者を適切に扶助し、自立助長を促す手法をも理解する。
授業担当者	磯野　博	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	最新 社会福祉士養成講座 4「貧困に対する支援」	
評価方法	授業の最終回「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。 出席状況や受講態度なども勘案して評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスを配布し授業概要を説明するとともに、受講上の留意点を周知徹底する。
2	生活保護法の目的と原理・原則①	生活保護法が憲法第25条の具現化とともに、自立助長を目的にすることを理解する。
3	生活保護法の目的と原理・原則②	補足生の原理、世帯単位の原則を中心にし、生活保護法の原理・原則を理解する。
4	生活保護法の目的と原理・原則③	補足生の原理、世帯単位の原則を中心にし、生活保護法の原理・原則を理解する。
5	生活保護法の扶助内容①	扶助には金銭給付と現物給付があり、併給を原則とし、単給もあることを理解する。
6	生活保護法の扶助内容②	扶助には金銭給付と現物給付があり、併給を原則とし、単給もあることを理解する。
7	生活保護法の扶助内容③	生活扶助の仕組みと計算方法を説明し、その歴史的経緯の実際と意義を理解する。
8	生活保護法の加算と控除	生活扶助の各種加算と控除を説明し、実際の保護基準額の地域間格差を理解する。
9	生活保護法の自立観と自立支援プログラム	生活保護での自立観の推移と、自立助長のための自立支援プログラムを理解する。
10	日本における公的扶助の歴史①	明治期の恤救規則と昭和期の救護法の特徴、現行生活保護との相違を理解する。
11	日本における公的扶助の歴史②	明治期の恤救規則と昭和期の救護法の特徴、現行生活保護との相違を理解する。
12	諸外国における公的扶助の歴史①	イギリスの救貧法、アメリカの社会保障法、また豪州の公的扶助の特徴も理解する。
13	諸外国における公的扶助の歴史②	イギリスの救貧法、アメリカの社会保障法、また豪州の公的扶助の特徴も理解する。
14	まとめ	授業全体を振り返り、試験の内容と方法、評価方法について説明する。
15	試験	試験を実施し、解答と解説を行う。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	保健医療サービス		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	現代福祉の課題の一つに「保健」「医療」「福祉」の連携が挙げられる。「予防」「治療」「予後」は生活のなかで相互に連携することで、生涯発達やQOLの視点を見出すことが可能となる。そのための保健医療サービスの制度や実践について学ぶものとする。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	保健医療サービスの体系は、単に病院の中だけで完結するものではなく、制度をはじめ、施設や地域等も含めながら、総合的かつ包括的な視点を養うようにする。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	①「保健」「医療」「福祉」の連携がイメージできる。 ②保健医療サービスの現状と課題を知る。 ③幅広く知識を吸収し、社会福祉士として活躍する基礎固めをする。	
授業担当者	三嶋秀子		
実務家教員	○	病院における看護師としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	社会福祉士シリーズ17『保健医療サービス』 弘文堂		
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	保健医療と法制度の歴史
2	医療保険	医療保険の法制度と現状・課題
3	診療報酬	診療報酬制度の概要と課題
4	保健医療福祉政策	保健医療福祉政策の概要
5	コーディネート機能	保健医療福祉におけるコーディネート機能
6	各専門職の役割	各専門職の役割と機能分担
7	連携	各専門職の機能と連携
8	がん医療	がん医療と医療福祉
9	慢性疾患・難病	慢性疾患・難病への対応と保健医療福祉
10	高齢者の主な疾患	高齢者の主な疾患と保健医療福祉
11	地域における保健医療福祉	地域における保健医療福祉の現状と課題
12	演習	保健医療サービスにおける演習
13	演習	保健医療サービスにおける演習
14	演習	保健医療サービスにおける演習
15	まとめ	学習の振り返り

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	更生保護制度		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	更生保護を巡る歴史を概観し、相談援助の新たな分野である更生保護と相談援助の関連を学ぶ。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	更生保護の定義や歴史、支援内容や関係機関・団体の役割などについて概観し、更生保護が抱える現状と課題を理解する。	
授業回数	１５回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	社会福祉分野と更生保護の接点を見出し、ソーシャルワーカーの一人として、自らの更生保護に対する役割を自覚する。	
授業担当者	遠藤　司		
実務家教員	○	更生保護施設における社会福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	最新　社会福祉士養成講座　⑩『刑事司法と福祉』 中央法規出版		
評価方法	受講態度と小テストによって評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 刑事司法と福祉	シラバスを配布し授業概要を説明するとともに、受講上の留意点を周知徹底する。刑事司法にソーシャルワーカーがかかわる理由、支援にあたって求められる姿勢、刑事司法と福祉の関係がどのように展開してきたのかを知り、ソーシャルワーカーに期待される役割と留意点そしてジレンマについて学ぶ。
2	社会と福祉	犯罪の定義の測り方、犯罪統計の基本について確認し、日本の犯罪状況と、社会において犯罪という現象がどのように捉えられているのかを把握し、矯正施設の現状を知り、日本の刑事司法を学ぶ。
3	犯罪原因論と対策	犯罪原因論の変遷や意義を確認し犯罪への対応と限界を知り、犯罪対策について考えソーシャルワークの立場から犯罪原因論を学ぶ。
4	刑罰とは何か	刑罰制度の歴史を知り、社会において刑罰がもつ意義について考え、刑罰の本質と機能を知り、刑罰の適応状況を把握する。
5	刑事司法	刑事手続きの概要と重要の原則、犯罪の成立要件などについて知り、その際のクライアントへの扱われ方を学ぶ。
6	少年司法	少年法の目的や機能を確認し、成人に対する刑事手続きとは異なる少年保護手続きの流れを概観したうえ、少年司法制度上の処分とその適応状況を学ぶ。
7	成人の施設内処遇	刑事施設における処遇のあり方・現状・課題について学び、刑事施設内福祉専門職が業務とする地域連携について考える。
8	少年の施設内処遇	少年院および少年鑑別所の組織体制と処遇を確認し、少年院における矯正教育のあり方と社会復帰支援の実際について学ぶ。
9	更生保護の理念	社会内処遇としての更生保護の意義と歴史を確認し、更生保護におけるソーシャルワーカーの役割・課題を認識する。
10	更生保護の実際	保護観察・仮釈放を中心に、更生保護の実際を学び、更生保護における関係機関のネットワークと保護観察官の業務について確認する。
11	精神障害者を対象とした医療観察制度	医療観察制度の概要および手続きの流れを確認し、社会復帰調整官の役割や医療観察制度にかかわる地域ソーシャルワーカーの役割について学ぶ。
12	高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉	「司法と福祉の連携」の展開・地域生活定着支援センターの役割と機能について確認し、犯罪や非行に至った高齢者・障害者の特徴を把握し、その支援の実際および課題について学ぶ。
13	アディクションを抱える人と刑事司法	アディクションのメカニズムやその治療、そして回復に必要なものを確認し、刑事司法におけるアディクション対応やソーシャルワークについて学ぶ。
14	犯罪被害者支援等支援	犯罪被害者等支援に関する制度の概要を把握し、支援における考え方、そして支援の実際を学ぶ。
15	コミュニティ刑事司法	刑事司法への市民参加のあり方、犯罪現象への向きあい方、対話という問題解決のあり方を学び、自分と犯罪との関係について考える。

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	権利擁護と成年後見制度	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	権利擁護に関する法制度の概要を学ぶとともに、権利擁護と相談援助の関連を学ぶことをとおして、相談援助の新たな役割について展望する。
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	相談援助活動と法とのかかわりを理解し、福祉サービス利用者のもつ基本的人権をはじめとした諸権利を擁護する仕組みについて、制度と実践の両面から理解できるよう講義する。授業は講義形式で進めるが、より実践的な理解を深めるために演習も行うため、積極的に取り組んでほしい。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	①相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。 ②相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）について理解する。 ③成年後見制度の実際について理解する。 ④社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。
授業担当者	井川　真世	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	・新社会福祉士養成課程対応『権利擁護を支える法制度』（みらい） ・社会福祉小六法、社会福祉国試ナビ ・適宜必要資料配布	
評価方法	・出席率　・授業態度（グループワーク時も含む）　・提出物（課題）評価　・試験（小テストを含む）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	「人権とは何か」
2	権利擁護	権利擁護（アドボカシー）とは何か ソーシャルワークと権利擁護
3	成年後見制度 と日常生活自立支援事業の理解	成年後見制度とは　成年後見制度の概要　法定後見制度の概要　任意後見制度の概要
4		成年後見制度の最近の動向 ソーシャルワーカーとして成年後見制度を活かす
5		日常生活支援事業のしくみ　　成年後見制度との連携
6	権利擁護	意思決定支援のために
7		権利擁護活動の関連法規と行政・組織と専門職
8	権利擁護を担う社会福祉士の役割と活動	社会福祉士の役割
9		社会福祉士の活動
10	権利擁護活動の実際	事例検討①（グループワーク）、発表
11		事例検討②（グループワーク）、発表
12		事例検討③（グループワーク）、発表
13	現代社会における権利擁護の課題	新聞記事、社会の動向などから読み取る
14		権利擁護の課題に対する考察
15	まとめ	学習の振り返り

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	相談援助演習		
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい	
学科	総合福祉学科	相談援助をめぐる多様な事例を検討することをとおして、相談援助の実践的な技術を具体的に学ぶ。そして、複数の相談援助の技法に関する認識を深める。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	相談援助にかかわる理論、知識、技術の学習と実習での学びを繋げ、実践的な知識と技術を習得できるように段階的に学びを深めていく。ソーシャルワークの現代に求められる役割を明確化し、価値基盤の理解に繋げていく。自己理解、自己覚知、他者理解についても必要な知識と技術を習得していく。実習の振返りも行うこととする。	
授業回数	60回		
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	4単位	社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを達成目標とする。	
授業担当者	石田　麗		
実務家教員	○	障害者就労支援事業所における相談員としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　ソーシャルワーク演習【共通科目】・適宜必要資料配布		
評価方法	出席率・授業態度・課題・レポート		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	・シラバスの説明 ・厚生労働省が提示するSWの機能、社会資源の開発の視点からミクロ・メゾ・マクロの基礎
2		・グループワーク（事例作成ワーク） ・作成した事例からニーズを導き出す
3	SW演習の意義と目的	・社会資源を活用した事例作り、今後のSW演習の意義や目的に繋げる
4		・社会資源を活用した事例を完成させ、事例検討を行う ・社会福祉士の業務と役割についての確認
5		・相談援助の目的・目標・意義についの理解（グローバル定義） ・福祉ニーズの明確化の事例検討
6	人と環境の交互作用	・交互作用について ・生活モデルの基本概念の説明ができるようになる
7		・生活モデルの視点からクライエントの理解のプロセス（演習問題）
8		・演習問題の結果を全体共有し、生活モデルの基本理念とSW実践との関連性が説明できるようになる
9		・社会システムの視点の理解、エコマップの理解 ・システム理論の視点の理解
10		・社会システムの視点から一人と環境の交互作用を理解するための演習問題 （エコマップの活用とシステム理論の理解）
11		・演習問題の結果の全体共有 ・実際に問題を解決するために必要なアクション・システムの形成について
12		・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの理解 ・クライエントシステムの理解
13		・演習問題を通してバイオ・サイコ・ソーシャルの交互作用をICFとの関連性 （アセスメント方法が分かり、個人内の機能を身体面、認知面、感情面、行動面、動機面から把握できる）
14		・演習問題の結果を全体共有 ・環境因子がクライエントシステムに与える影響がアセスメントできる必要性

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15		・「人間を理解する」とは何かを演習を通して「他者理解」を理解するために自己がどのように他者との向き合い方 ・自分のライフヒストリーを作成し、自己理解の重要性と他者理解の重要性
16		・演習を通して ①自己の個人的ニーズの内容の理解、表現ができるようになる ②自己の価値観について表現できる
17		③自己の価値観と他者の価値観との相違を識別できる ④お互いの意見を尊重して、グループとしての意思決定を行うことができる
18		・援助者としての自己理解をする。 ・演習を通して ①効果的に援助を行う援助者の特性について考える　②援助者としての自身のストレングスに気づく
19		③援助者として自身の限界を緩和する手立てを考える ・演習結果を通して、他者との相違点や類似点を知り、援助者としての傾向を知る
20	SWの対象、機能と役割	・ソーシャルワークの実践事例をロールプレイ形式で行う （対応の難しさと、自分に必要な技術や知識が何かを明確にする）
21		・SWの対象を明確にするためのワークの説明。 ・第5期実習と踏まえたグループ分けを行い、次回から始まるワークに必要な物をまとめる。
22		・問題発見の発端となる出来事に関しての演習 各グループで模造紙を使用し、 ①SWの対象として、ミクロ・メゾ・マクロを一体的に捉える　②ミクロ・メゾ・マクロの各レベル間の交互作用が説明できる
23		③ミクロ・メゾ・マクロを一体的に捉えて、問題解決の検討ができる （演習結果を全体共有し、機能と役割についての理解を深める）
24		・SWの価値基準及び、倫理・理念につての演習（GW） ①態度や行動に表出する倫理をロールプレイで学ぶ ②個人的な価値観と専門職としての価値観についての演習を行う
25		③専門職としての倫理判断ができるかの演習を行う ④倫理的ジレンマについての演習を行う
26		④倫理的ジレンマの演習の振り返り 倫理的ジレンマに出くわした時の向き合い方をグループワークで学ぶ
27		④前回の倫理的ジレンマについての学びをいかし、再度演習を行う
28		⑤人間の多様性についての演習 ⑥評価対象課題として「人間の尊厳と公正な社会の実現」についての演習（グループワーク）
29		⑥評価対象課題として「人間の尊厳と公正な社会の実現」についての演習（グループワーク） ⑥評価対象課題として「人間の尊厳と公正な社会の実現」についての演習（個人ワーク）
30		⑥評価対象課題として「人間の尊厳と公正な社会の実現」についての演習（個人ワーク）
31	SW実習前の演習①	・洞察力と観察力トレーニング
32		・グループスーパービジョンの実施 実習前の不安や困りごとの共有と対処法について
33	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割	・親しい人とソーシャルワーカーとの関係性の違いについて学ぶ ・事例を基に対人援助関係について学ぶ
34		・事例を基に対人援助関係について学ぶ。 ・ロールプレイから対人援助関係の構築について学ぶ①
35		・事例を基に対人援助関係について学ぶ。 ・ロールプレイから対人援助関係の構築について学ぶ②
36		・事例を基に対人援助関係について学ぶ。 ・ロールプレイから対人援助関係の構築について学ぶ③
37		・クライエントの問題解決能力や環境への対応能力の強化について事例を基に検討する（個人ワーク）
38		・クライエントの問題解決能力や環境への対応能力の強化について事例を基に検討する（グループワーク）
39		・事例を基に対人援助関係について学ぶ ・ロールプレイから対人援助関係の構築について学ぶ

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
40		・事例を基に対人援助関係について学ぶ ・ロールプレイから対人援助関係の構築について学ぶ
41		・クライエントの問題解決能力や環境への対処能力の強化に関する事例から機能と役割を学ぶ ・クライエントと必要な社会資源との関係構築・調整に関する事例から機能と役割を学ぶ
42		・事例での学びをグループワークで確認し、ソーシャルワーカーの役割を理解する
43	ソーシャルワークにおけるクライエントとの基本的かかわりの特性	・ソーシャルワーカーの基本的なクライエントとの関り技術、コミュニケーションについて理解し、技術を習得するためにロールプレイを行い、グループスーパービジョンを行う。
44		・基本的な言語技術、非言語的技術などについて演習で体験し、習得する。（ロールプレイとグループスーパービジョン）
45	面接の構造化 面接技術（言語的）	・グループワークで面接の構造と要素を理解し、その要素の必要性を考える。
46		・グループワークとロールプレイを行い、面接の技法を理解し、状況に応じて使い分けることができるようになる。
47	面接技術（言語的）	・グループワークとロールプレイを行い、面接の技法を理解し、状況に応じて使い分けることができるようになる。
48	第6期実習前ワーク	・強度行動障害についての演習を行う。 ・疑似体験から強度行動障害に触れ、家族が抱える悩みや、地域が抱える課題が何かを当事者の話から考える。 ※評価対象課題要提出
49	コミュニケーション技術と面接技法	・ソーシャルワークにおけるクライエントとの基本的かかわりの特性
50		・面接の構造化について （面接の構造と要素を理解し、その要素の必要性）
51		・面接の場所（環境整備の実際） （面接の場所（環境）に配慮する視点を養い、状況にあった方法の検討）
52		・面接技術（言語的表現の選択） （面接の技法を理解し、状況に応じての使い分け）
53	面接技法の活用	・ロールプレイ（事例検討を行い、実際の面接をロールプレイで行い、グループスーパービジョンを行う）
54		・ロールプレイ（事例検討を行い、実際の面接をロールプレイで行い、グループスーパービジョンを行う）
55		・ロールプレイ（事例検討を行い、実際の面接をロールプレイで行い、グループスーパービジョンを行う）
56	ソーシャルワーカーの倫理綱領から対人援助関係について	・社会福祉士倫理綱領と行動規範の復習
57		・ロールプレイ（困難事例をロールプレイで行い、グループスーパービジョンを行う）
58	まとめ	・まとめで行う最終課題の説明 ・レポート作成のための準備
59	レポート作成	・評価対象課題（災害時の相談援助）
60		・評価対象課題（災害時の相談援助）→要提出

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	相談援助実習指導	
年度	令和6年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	相談援助実習を行うために必要な知識として、実習先の種別や機能、根拠法などについて学び、求められる相談援助の機能と技術について学ぶ。また、ソーシャルワーカーを目指す動機を説明することができ、自分の目指す将来像を具現化することができる。
学年	3年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	①第5期実習を振り返り、より広範な視点をもって第6期実習に挑めるよう、ソーシャルワーカーとしての学習をより深めていく。 ②配属実習で、人々と環境の交互作用を理解できるようになるために、「地域社会の概況」「人々の暮らし」「地域社会の社会資源」「実習施設の概要」を知る。 ③配属実習で、ソーシャルワークがどのような枠組みの中で、誰の（何の）ために行われているのかを理解できるようになるための事前学習を行う。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	①相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を習得する。 ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求めらる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ③具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 ④社会資源を有効に活用した個別支援計画が立案できるようなる。
授業担当者	井川　真世	
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験
使用テキスト 参考文献	・最新　社会福祉士養成講座　８　ソーシャルワーク実習指導　ソーシャルワーク実習　［社会専門］（中央法規） ・社会福祉小六法 ・見て覚える！社会福祉士国試ナビ2025 ・これだけは押さえておきたい！社会保障制度の用語辞典　（中央法規）	
評価方法	・出席率　・授業態度（グループワーク時も含む）　・提出物（課題）評価　・実習計画書、事前学習評価	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	振り返り	第5期実習の振り返り
2	振り返り	評価齟齬　自己評価、指導者評価の違いと原因を分析し、次回の実習計画に反映させる
3	実習報告会	パワーポイント等でまとめ、下級生に向けて報告発表
4	実習計画書作成	実習計画書作成　個人面談
5		実習計画書作成　個人面談
6		実習計画書作成　個人面談
7	事前学習	第5期実習で実習指導者から与えられている課題 各自不足していいる学習内容 資料集め、まとめ 個別支援計画書の評価、モニタリング グループディスカッション
8		
9		
10	振り返り	第6期実習の振り返り
11		ソーシャルワーク実習全体の振り返り
12		実習報告会
13		
14	目標とする 社会福祉士	地域で活躍できる社会福祉士とは
15		自分の目指す社会福祉士像